高槻赤十字病院

院内がん登録統計

2016年症例

企画情報課

発行日　2020年10月21日

～ はじめに ～

・『〇年症例』とは

院内がん登録のデータ提出、集計及び統計では「診断日」を基準として、まとめられています。

つまり、診断日が

2015年1月1日　～　2015年12月31日	→	2015年症例
2016年1月1日　～　2016年12月31日	→	2016年症例

という表現をします。

ちなみに「診断日」の定義としては以下のようになります。

自施設で診断された場合は

→ がんと診断されることになった検査（組織診、細胞診、CT、MRI等）が行われた日（自施設診断日）が診断日となります。

他施設で診断された後に自施設へ来院した場合は

→ がんに対しての何らかの診療行為を行うために初めて自施設を訪れた日（当該腫瘍初診日）が診断日となります。

・少数件数の表示方法について

この統計において、少数件数の表示方法については個人情報保護の観点より3件以下のものに関しては「1～3」と表示させていただきます。グラフ内の数値に関して上記に該当する場合はその表記を削除しています。

ちなみにこの統計で他データ（大阪府、全国）として使用している院内がん登録全国集計（後述）では10件未満の項目については正確な数字を表記していません（第9回　がん診療提供体制のあり方に関する検討会　資料2　少数例のがんの情報提供について　参照）。

表記方法は以下のとおり

1件、2件、3件	→	1～3
4件、5件、6件	→	4～6
7件、8件、9件	→	7～9

・『院内がん登録全国集計』とは

院内がん登録全国集計とは国立がん研究センターが年に一度出しているがん登録統計のことです。

がん診療連携拠点病院（小児がん拠点病院を含む）及び都道府県から推薦のあった病院が集計に参加しています。

2017年症例からは拠点病院以外の施設からのデータ提出も認められました。

2016年症例では

がん診療連携拠点病院（小児がん拠点病院を含む）	440施設	約693,000件
都道府県から推薦のあった病院	338施設	約244,000件
合計	778施設	約938,000件

の統計データになります。

ただし、匿名化されたデータを集計しているため、同一患者の同一腫瘍が別々の病院にカウントされている場合があります。

～ 目次 ～

Ⅰ)院内がん登録統計　＜基本統計＞

Ⅰ)-1. 登録件数　5年推移

Ⅰ)-2. 当院での治療症例件数　5年推移

Ⅰ)-3. 2016年症例の部位別登録件数

Ⅰ)-3-A. 部位別登録件数　男性

Ⅰ)-3-B. 部位別登録件数　女性

Ⅰ)-3-C. 部位別登録件数　全体

Ⅰ)-4. 2016年症例の部位別割合　他データとの比較

Ⅰ)-4-A. 部位別割合　5大がん + 5大がん以外

Ⅰ)-4-B. 部位別割合　5大がん以外　詳細

Ⅰ)-5. 2016年症例の診断時年齢別件数

Ⅰ)-5-A. 診断時年齢別件数　男性

Ⅰ)-5-B. 診断時年齢別件数　女性

Ⅰ)-5-C. 診断時年齢別件数　全体

Ⅰ)-6. 2016年症例の部位別診断時年代別件数及び割合

Ⅰ)-7. 2016年症例の来院経路別件数及び他データとの比較

Ⅰ)-7-A. 来院経路別件数

Ⅰ)-7-B. 来院経路別件数及び割合　他データとの比較

Ⅰ)-8. 2016年症例の発見経緯別件数及び他データとの比較

Ⅰ)-8-A. 発見経緯別件数

Ⅰ)-8-B. 発見経緯別件数及び割合　他データとの比較

Ⅰ)-9. 2016年症例の症例区分件数及び他データとの比較

Ⅰ)-9-A. 症例区分別件数

Ⅰ)-9-B. 症例区分別件数及び割合　他データとの比較

Ⅰ)-10. 2016年症例の部位別初回治療内容

Ⅱ)院内がん登録統計　＜部位別統計＞

Ⅱ)-1. 胃癌
- Ⅱ)-1-A. 胃癌　登録件数及び治療開始症例件数　5年推移
- Ⅱ)-1-B. 胃癌　2016年症例　男女別診断時年代別件数
- Ⅱ)-1-C. 胃癌　2016年症例　自施設治療開始症例　治療開始前stage別件数及び割合
  - Ⅱ)-1-C-①. 2016年症例　自施設データ
  - Ⅱ)-1-C-②. 2016年症例　他データとの比較
- Ⅱ)-1-D. 胃癌　2016年症例　治療内容のデータ比較

Ⅱ)-2. 大腸癌
- Ⅱ)-2-A. 大腸癌　登録件数及び治療開始症例件数　5年推移
- Ⅱ)-2-B. 大腸癌　2016年症例　男女別診断時年代別件数
- Ⅱ)-2-C. 大腸癌　2016年症例　自施設治療開始症例　治療開始前stage別件数及び割合
  - Ⅱ)-2-C-①. 2016年症例　自施設データ
  - Ⅱ)-2-C-②. 2016年症例　他データとの比較
- Ⅱ)-2-D. 大腸癌　2016年症例　治療内容のデータ比較

Ⅱ)-3. 肝癌
- Ⅱ)-3-A. 肝癌　登録件数及び治療開始症例件数　5年推移
- Ⅱ)-3-B. 肝癌　2016年症例　男女別診断時年代別件数
- Ⅱ)-3-C. 肝癌　2016年症例　自施設治療開始症例　治療開始前stage(規約)別件数及び割合
  - Ⅱ)-3-C-①. 2016年症例　自施設データ
  - Ⅱ)-3-C-②. 2016年症例　他データとの比較
- Ⅱ)-3-D. 肝癌　2016年症例　治療内容のデータ比較

Ⅱ)-4. 肺癌
- Ⅱ)-4-A. 肺癌　登録件数及び治療開始症例件数　5年推移
- Ⅱ)-4-B. 肺癌　2016年症例　男女別診断時年代別件数
- Ⅱ)-4-C. 肺癌　2016年症例　自施設治療開始症例　治療開始前stage別件数及び割合
  - Ⅱ)-4-C-①. 2016年症例　自施設データ
  - Ⅱ)-4-C-②. 2016年症例　他データとの比較
- Ⅱ)-4-D. 肺癌　2016年症例　治療内容のデータ比較

Ⅱ)-5. 乳癌
- Ⅱ)-5-A. 乳癌　登録件数及び治療開始症例件数　5年推移
- Ⅱ)-5-B. 乳癌　2016年症例　男女別診断時年代別件数
- Ⅱ)-5-C. 乳癌　2016年症例　自施設治療開始症例　治療開始前stage別件数及び割合
  - Ⅱ)-5-C-①. 2016年症例　自施設データ
  - Ⅱ)-5-C-②. 2016年症例　他データとの比較
- Ⅱ)-5-D. 乳癌　2016年症例　治療内容のデータ比較

～ 院内がん登録統計 ～

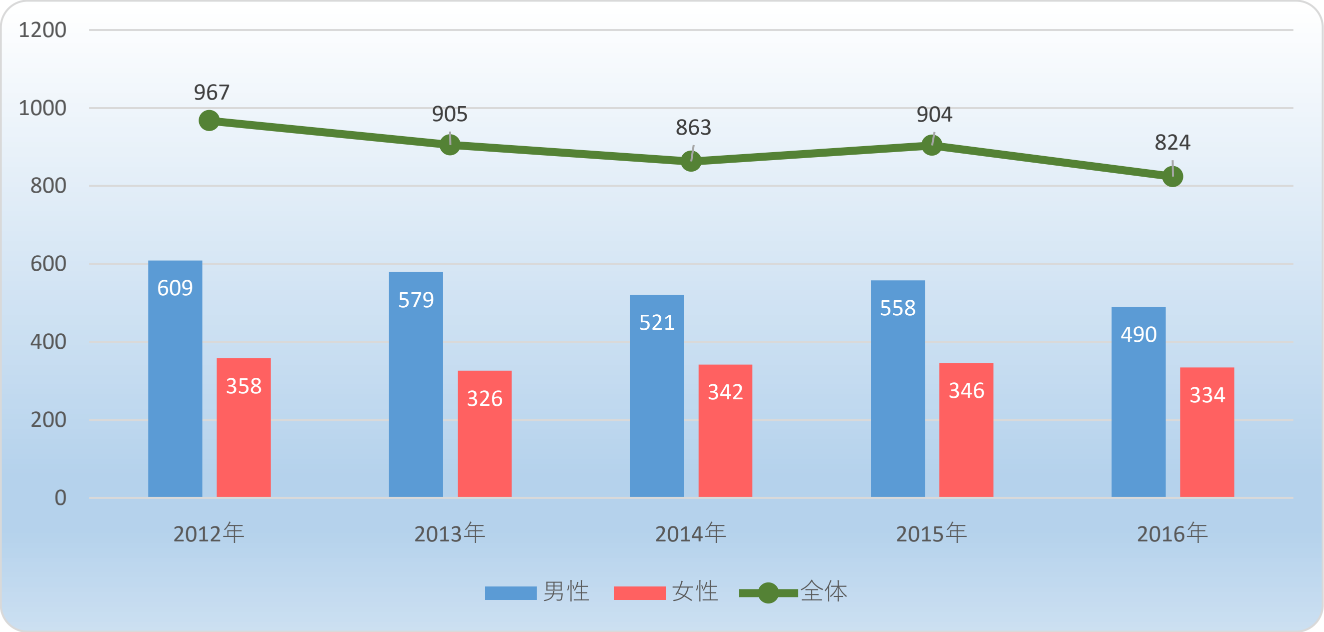
Ⅰ)院内がん登録統計　＜基本統計＞

Ⅰ)-1. 登録件数　5年推移

2012年～2016年の5年間の男女別及び全体のがん登録件数の推移になります。

登録件数は少し減少したという結果になりました。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
男性	609	579	521	558	490
女性	358	326	342	346	334
全体	967	905	863	904	824



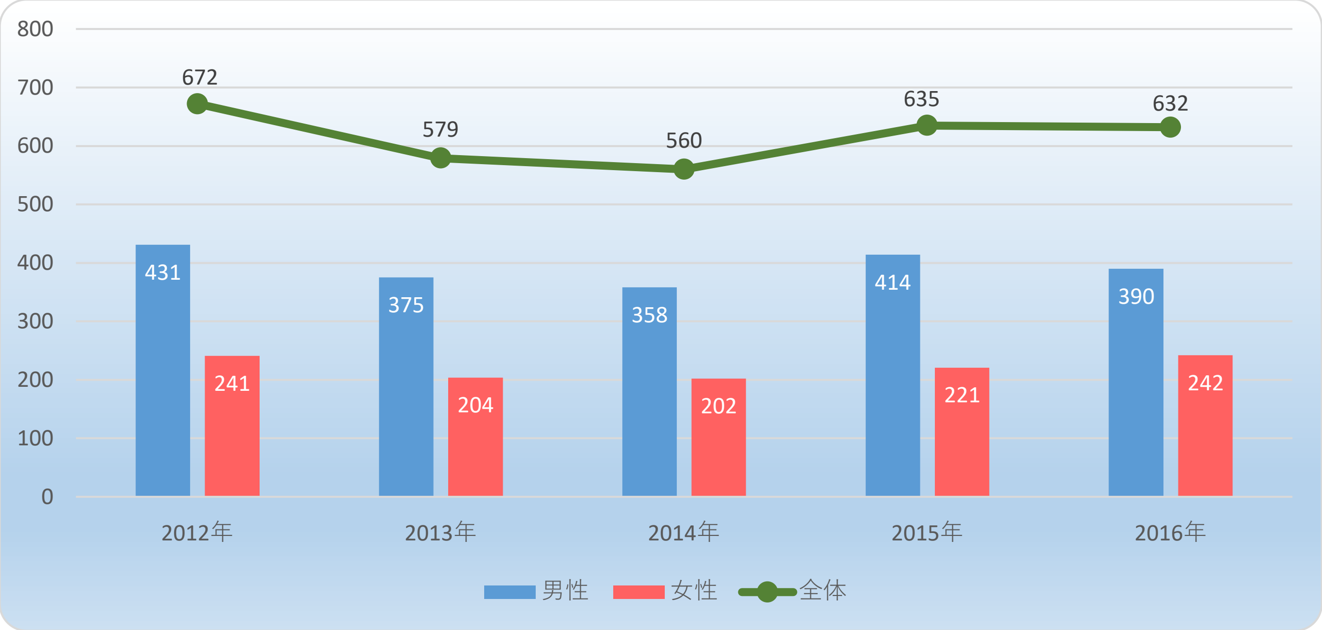
Ｉ)-2. 当院での治療症例件数　5年推移

2012年～2016年の5年間の男女別及び全体の当院で治療が行われた症例の件数の推移になります。

『自施設で治療が行われた症例(院内がん登録では「初回治療開始症例」と言う)』とは
自施設でその腫瘍に対して何らかの治療(経過観察を含む)が開始された症例のことで
自施設では診断のみしかしていない場合(治療は他施設で開始)や他施設で治療終了後に
自施設に来院した場合(治療開始後)は含まれません。

治療開始症例はほぼ横ばいという結果になりました。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
男性	431	375	358	414	390
女性	241	204	202	221	242
全体	672	579	560	635	632



Ⅰ)-3. 2016年症例の部位別登録件数

2016年症例の部位別登録件数になります。

部位別の分類方法については以下のように行いました。

① まず組織型で血液腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫等)とそれ以外にわける。

↓

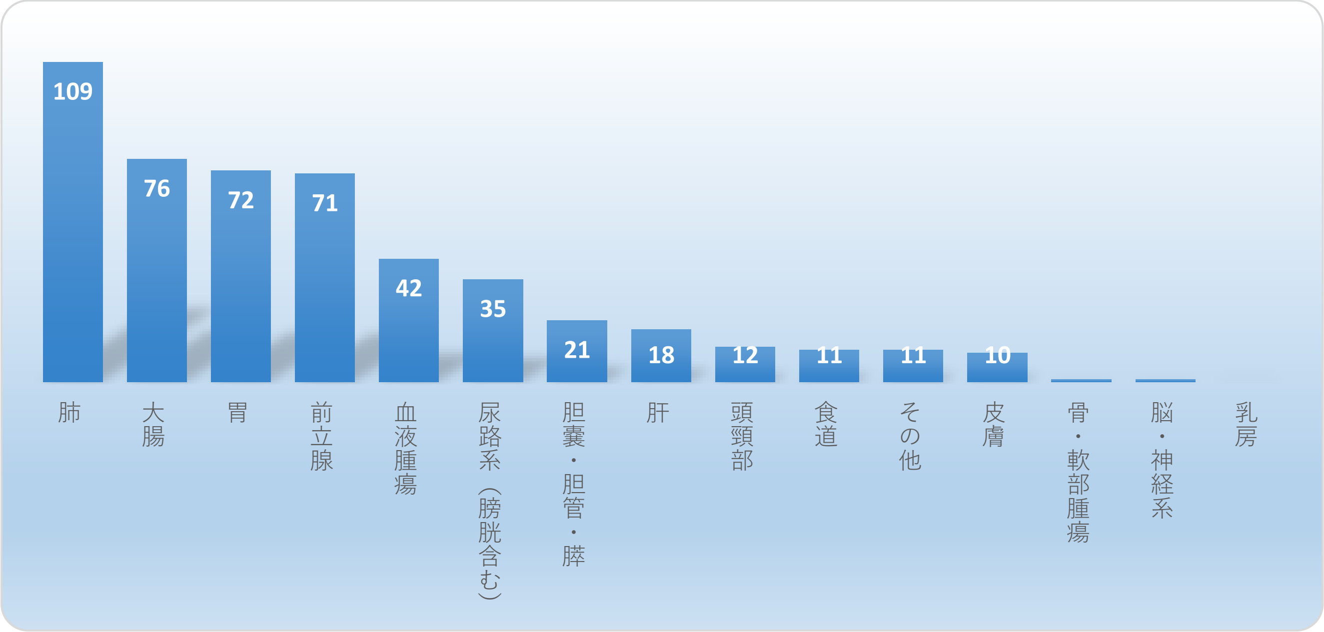
② 血液腫瘍以外をそのがんが発生した部位(原発巣)によって、以下のように分類。

・胃	: 胃癌
・大腸	: 大腸癌
・肝	: 肝細胞癌および肝内胆管癌
・肺	: 肺癌
・乳房	: 乳癌
・頭頚部	: 口腔癌、咽頭癌、喉頭癌、甲状腺癌
・食道	: 食道癌
・胆嚢・胆管・膵	: 胆嚢癌、胆管癌、膵癌
・骨・軟部腫瘍	: 骨腫瘍および軟部腫瘍
・皮膚	: 皮膚癌
・婦人科腫瘍	: 子宮頚癌、子宮体癌、卵巣癌、卵管癌
・前立腺	: 前立腺癌
・尿路系	: 膀胱癌、腎癌、腎盂癌、尿管癌
・脳・神経系	: 脳腫瘍および中枢神経腫瘍
・その他	: 上記以外

Ⅰ)-3-A. 部位別登録件数　男性

男性では1位:肺癌、2位:大腸癌、3位:胃癌、4位:前立腺癌・・・という結果になりました。

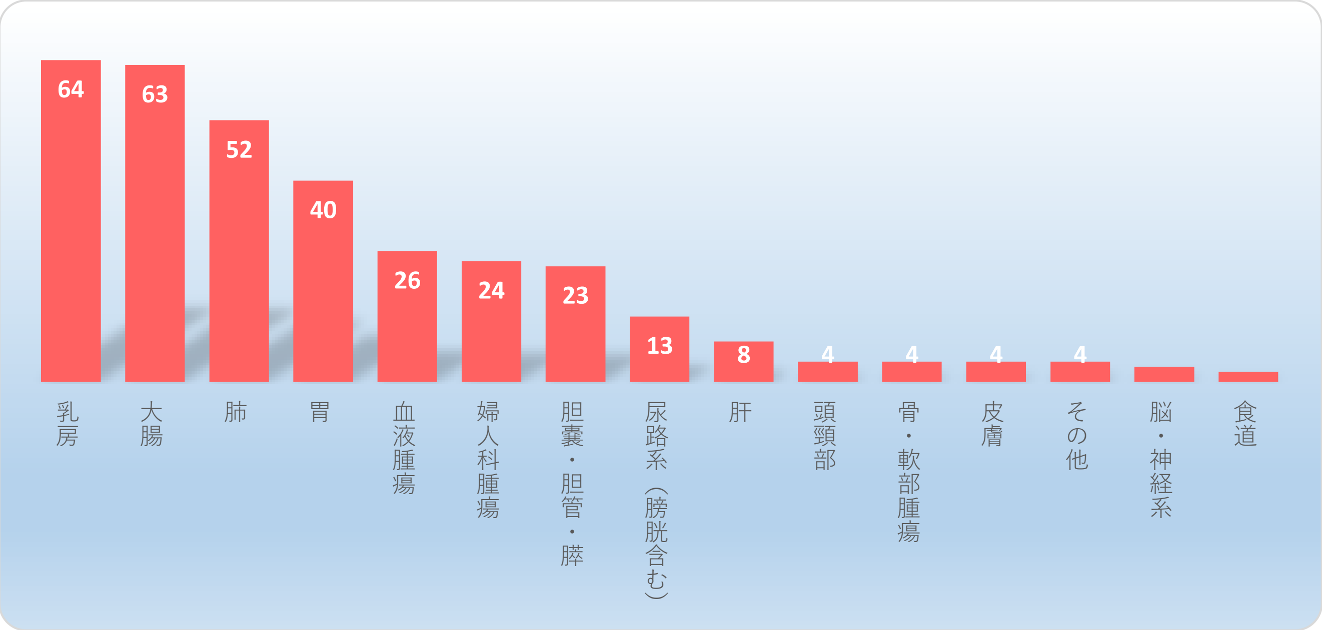
	胃	大腸	肝	肺	乳房	頭頚部	食道	胆嚢・胆管・膵	骨・軟部腫瘍	皮膚	前立腺	尿路系	脳・神経系	血液腫瘍	その他
男性	72	76	18	109	0	12	11	21	1～3	10	71	35	1～3	42	11



Ⅰ)-3-B. 部位別登録件数　女性

女性では1位：乳癌、2位：大腸癌、3位：肺癌、4位：胃癌・・・という結果になりました。

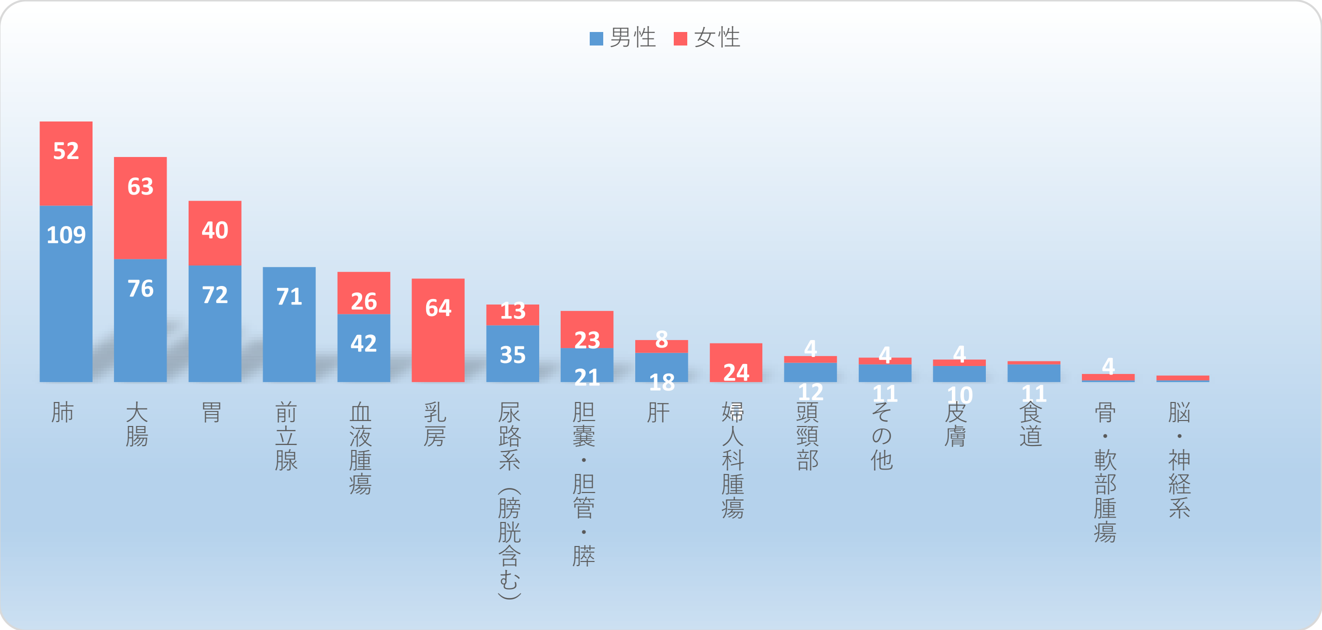
	胃	大腸	肝	肺	乳房	頭頸部	食道	胆嚢・胆管・膵	骨・軟部腫瘍	皮膚	婦人科腫瘍	尿路系	脳・神経系	血液腫瘍	その他
女性	40	63	8	52	64	4	1～3	23	4	4	24	13	1～3	26	4



Ⅰ)-3-C. 部位別登録件数　全体

全体では1位：肺癌、2位：大腸癌、3位：胃癌、4位：前立腺癌・・・という結果になりました。

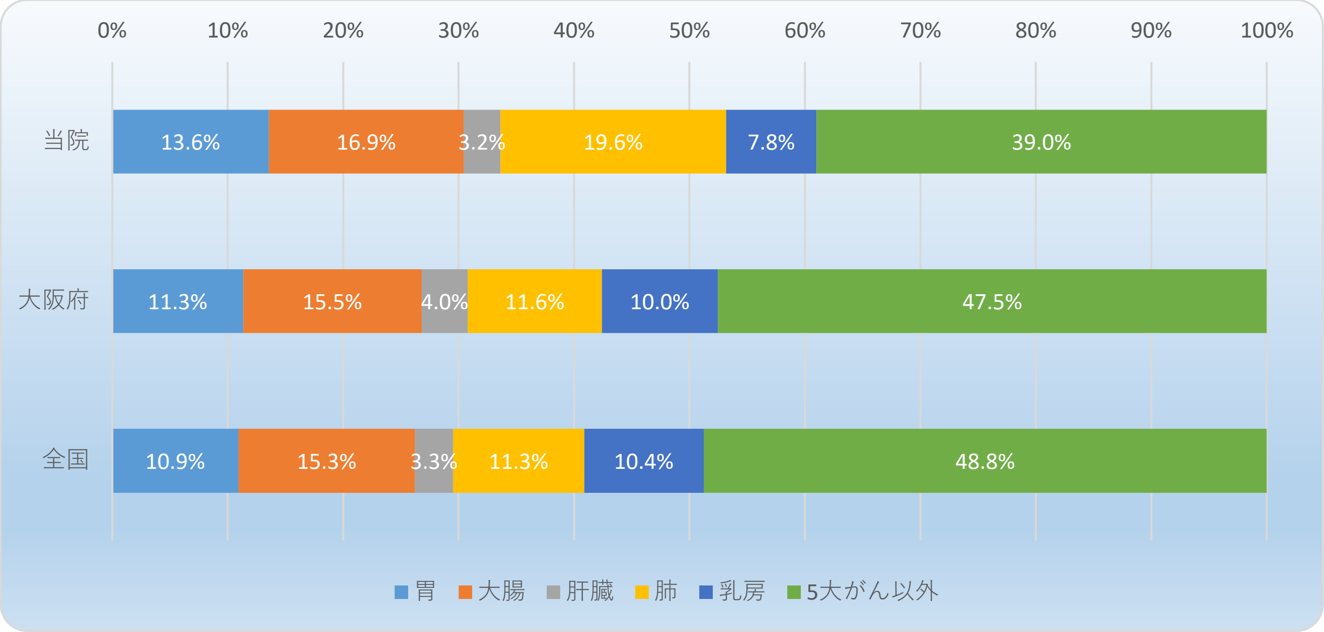
	胃	大腸	肝	肺	乳房	頭頸部	食道	胆嚢・胆管・膵	骨・軟部腫瘍	皮膚	婦人科腫瘍	前立腺	尿路系	脳・神経系	血液腫瘍	その他
全体	112	139	26	161	64	16	13	44	5	14	24	71	48	4	68	15



Ⅰ)-4. 2016年症例の部位別割合　他データとの比較

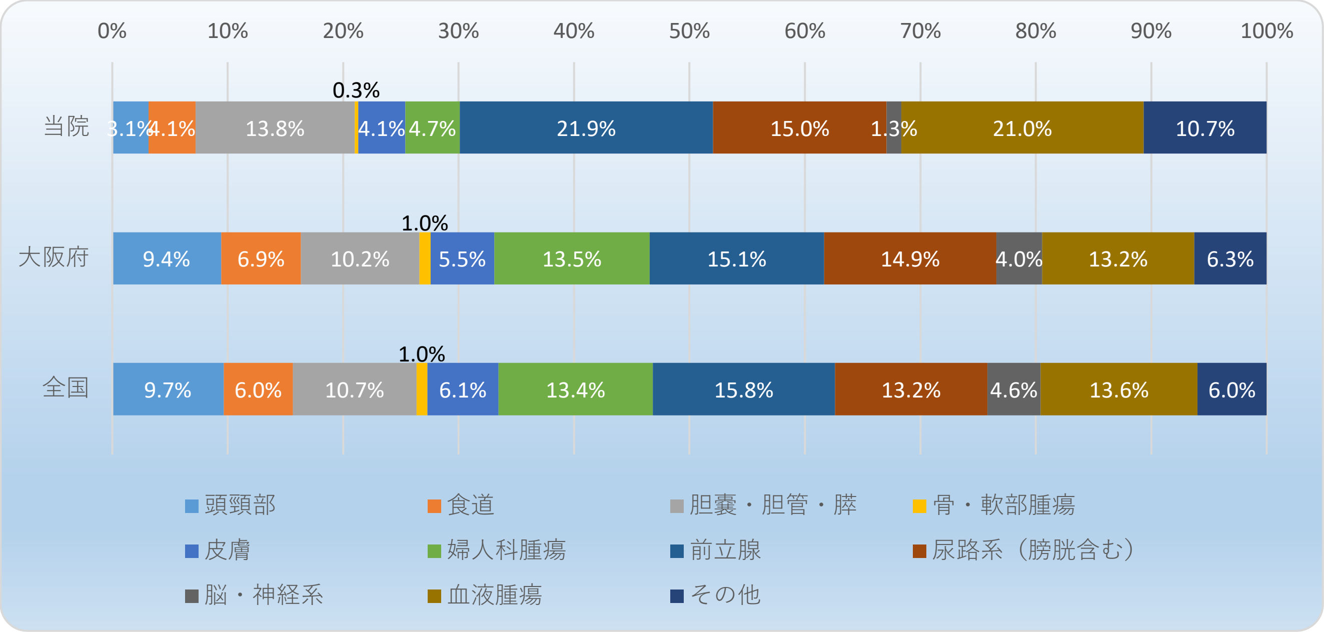
Ⅰ)-4-A. 部位別割合　　5大がん + 5大がん以外

当院は他のデータ(大阪府、全国)と比べると、「肺がん」の割合は多いが、「5大がん以外」の割合が少ないという結果になりました。



Ⅰ)-4-B. 部位別割合　　5大がん以外　詳細

当院は他のデータ(大阪府、全国)と比べると、「前立腺癌」及び「血液腫瘍」の割合は多いが、「頭頸部」及び「婦人科腫瘍」の割合が少ないという結果になりました。



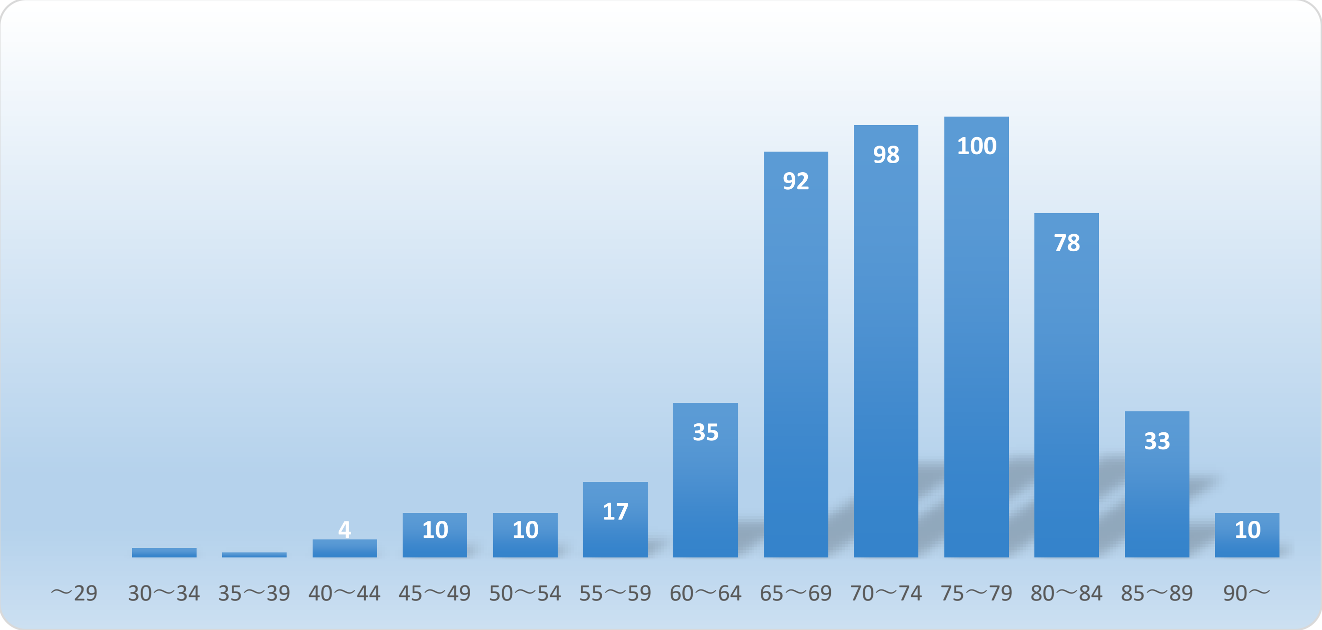
Ⅰ)-5. 2016年症例の診断時年齢別件数

がんと診断された時の年齢を診断時年齢といい、それを年代別に集計しました。

Ⅰ)-5-A. 診断時年齢別件数　男性

男性では65歳以上から急激に増え、84歳まで多いという結果になりました。

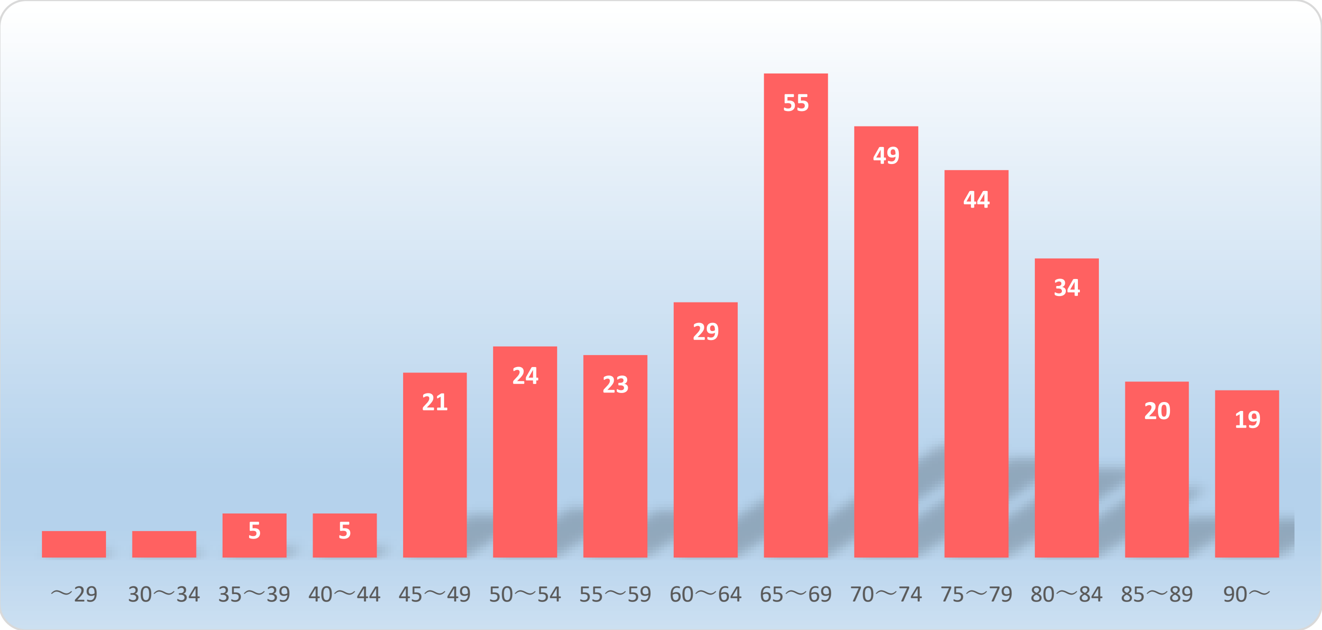
	～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～
男性	0	1～3	1～3	4	10	10	17	35	92	98	100	78	33	10



Ⅰ)-5-B. 診断時年齢別件数　女性

女性では45歳以上からそれなりに件数が多く、60代後半が一番多いという結果になりました。

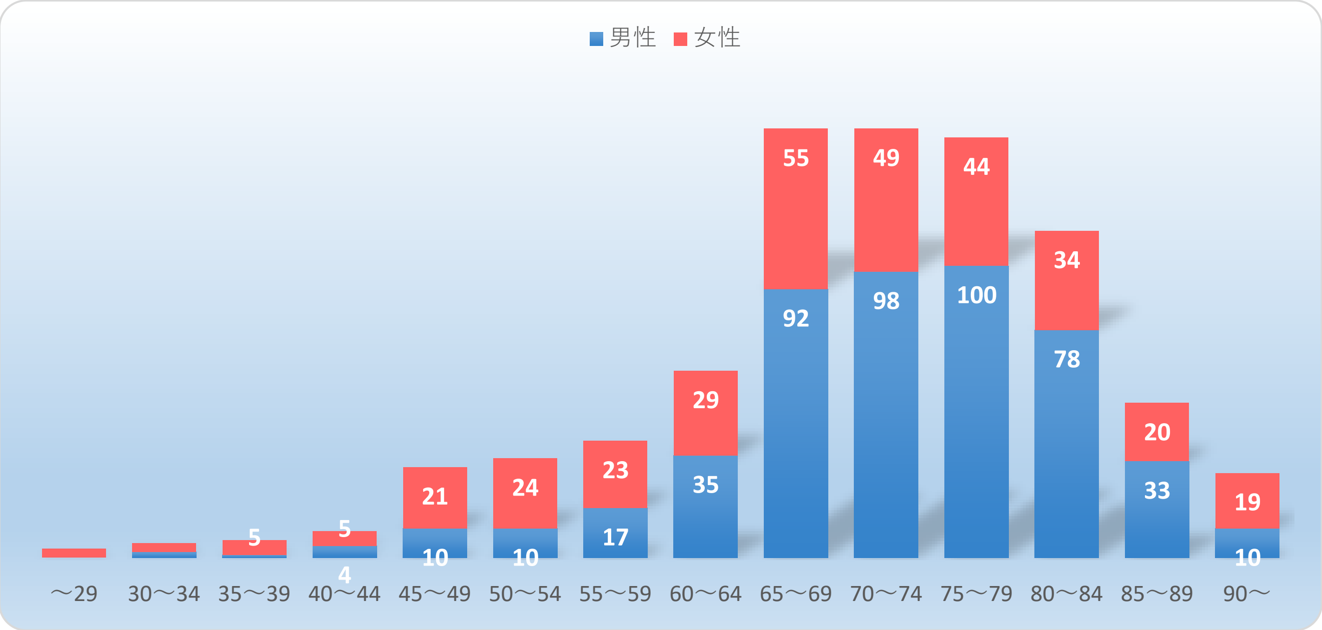
	～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～
女性	1～3	1～3	5	5	21	24	23	29	55	49	44	34	20	19



Ⅰ)-5-C. 診断時年齢別件数　全体

全体では60歳代後半～70歳代が多いという結果になりました。

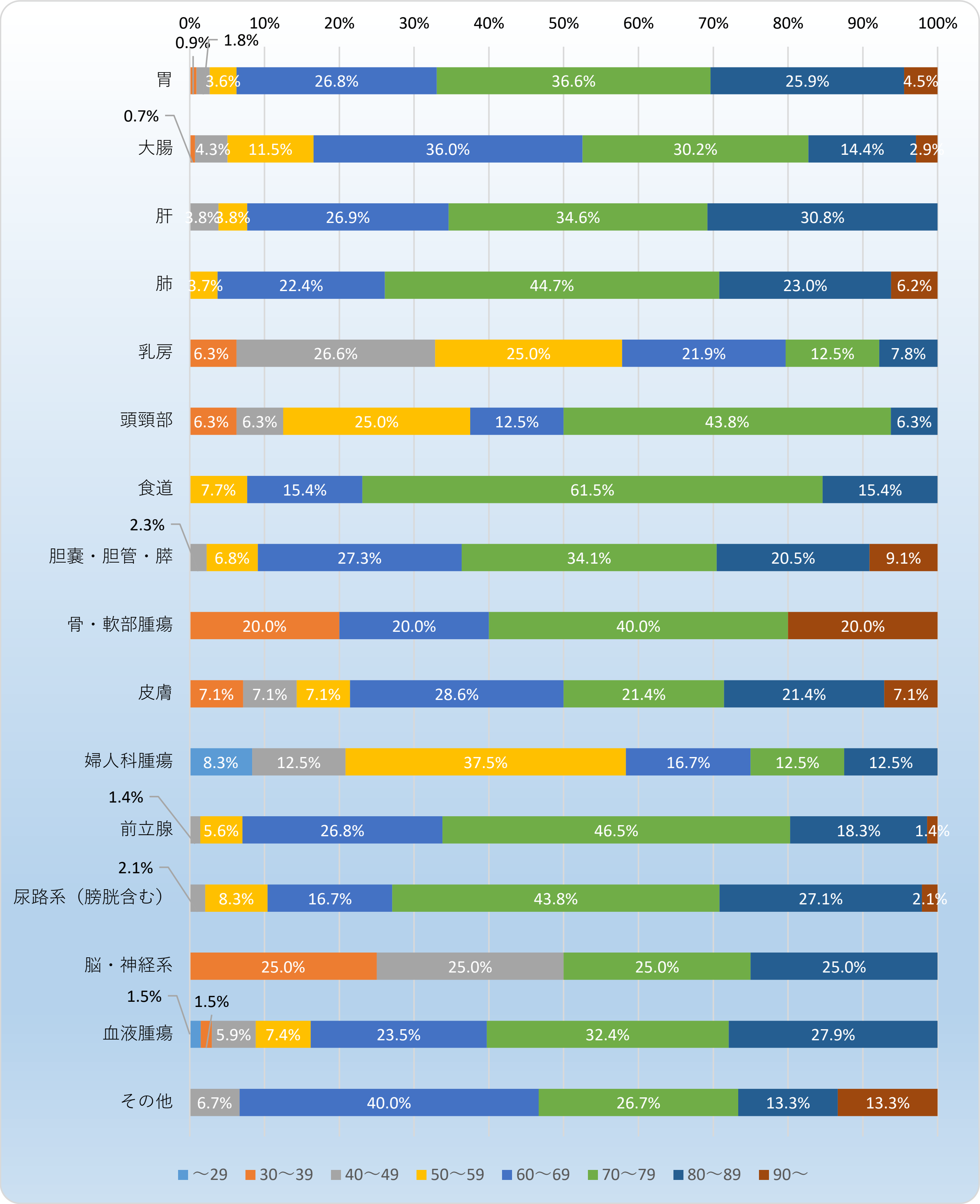
	～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～
全体	1～3	5	6	9	31	34	40	64	147	147	144	112	53	29



Ⅰ)-6. 2016年症例の部位別診断時年代別件数及び割合

部位別に診断時の年代別（10歳毎）の件数及び割合になります。

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
胃	0	1～3	1～3	4	30	41	29	5
大腸	0	1～3	6	16	50	42	20	4
肝	0	0	1～3	1～3	7	9	8	0
肺	0	0	0	6	36	72	37	10
乳房	0	4	17	16	14	8	5	0
頭頚部	0	1～3	1～3	4	1～3	7	1～3	0
食道	0	0	0	1～3	1～3	8	1～3	0
胆嚢・胆管・膵	0	0	1～3	1～3	12	15	9	4
骨・軟部腫瘍	0	1～3	0	0	1～3	1～3	0	1～3
皮膚	0	1～3	1～3	1～3	4	1～3	1～3	1～3
婦人科腫瘍	1～3	0	1～3	9	4	1～3	1～3	0
前立腺	0	0	1～3	4	19	33	13	1～3
尿路系	0	0	1～3	4	8	21	13	1～3
脳・神経系	0	1～3	1～3	0	0	1～3	1～3	0
血液腫瘍	1～3	1～3	4	5	16	22	19	0
その他	0	0	1～3	0	6	4	1～3	1～3



胃
大腸
肝
肺
乳房
頭頸部
食道
胆嚢・胆管・膵
骨・軟部腫瘍
皮膚
婦人科腫瘍
前立腺
尿路系（膀胱含む）
脳・神経系
血液腫瘍
その他
～29
30～39
40～49
50～59
60～69
70～79
80～89
90～

Ⅰ)-7. 2016年症例の来院経路別件数及び他データとの比較

Ⅰ)-7-A. 来院経路別件数

『来院経路』とは

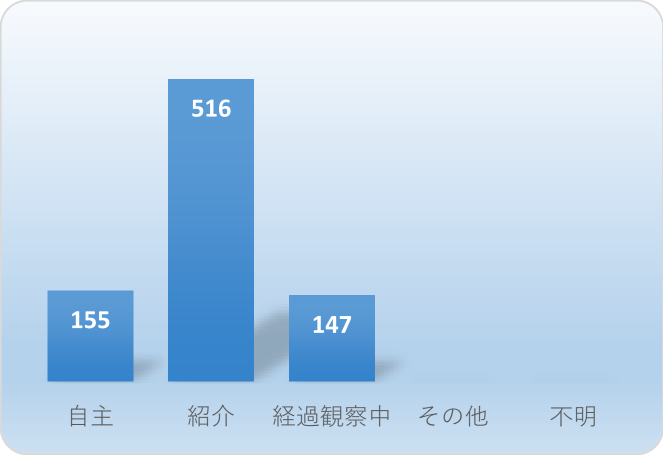
患者さんがその腫瘍の診断・治療に関してどのようにして自施設を訪れることになったかを示す項目になります。

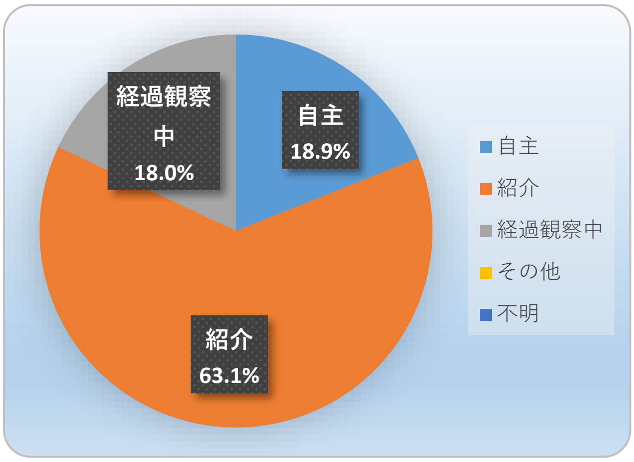
分類は以下のようになります。

・ 自主	:	自分で病院を選択し、自施設に来院した場合
・ 紹介	:	他施設から紹介され、自施設に来院した場合
・ 経過観察中	:	自施設で他の疾患の経過観察中に偶然発見された場合
・ その他	:	上記以外(剖検等)
・ 不明	:	詳細不明

「紹介」が圧倒的に多いという結果になりました。

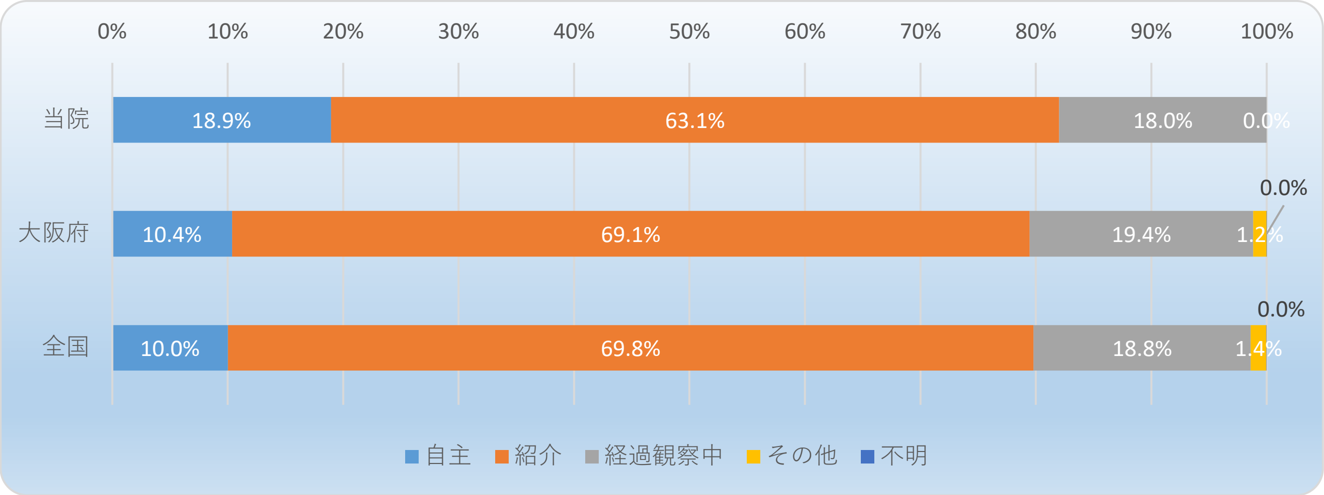
	自主	紹介	経過観察中	その他	不明
件数	155	516	147	0	0





Ⅰ)-7-B. 来院経路別件数及び割合　他データとの比較

当院は他のデータ(大阪府、全国)と比べると「自主」の割合が多く、「紹介」の割合が少し少ないという結果になりました。



Ⅰ)-8. 2016年症例の発見経緯別件数及び他データとの比較

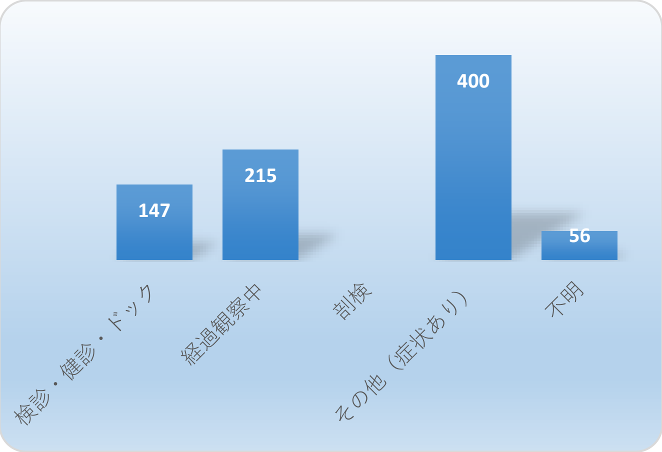
Ⅰ)-8-A. 発見経緯別件数

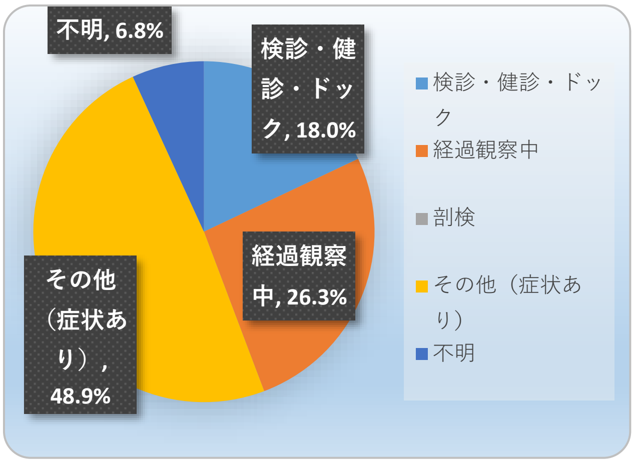
『発見経緯』とは
その腫瘍が発見されることになった要因を示す項目になります。
分類は以下のようになります。

・ 検診・健診・ドック	： がん検診、健康診断、人間ドック
・ 経過観察中	： 自施設で他の疾患の経過観察中に偶然発見された場合
・ 剖検	： 剖検で発見
・ その他（症状あり）	： 何らかの症状があり受診
・ 不明	： 詳細不明

「その他（症状あり）」が多いという結果になりました。

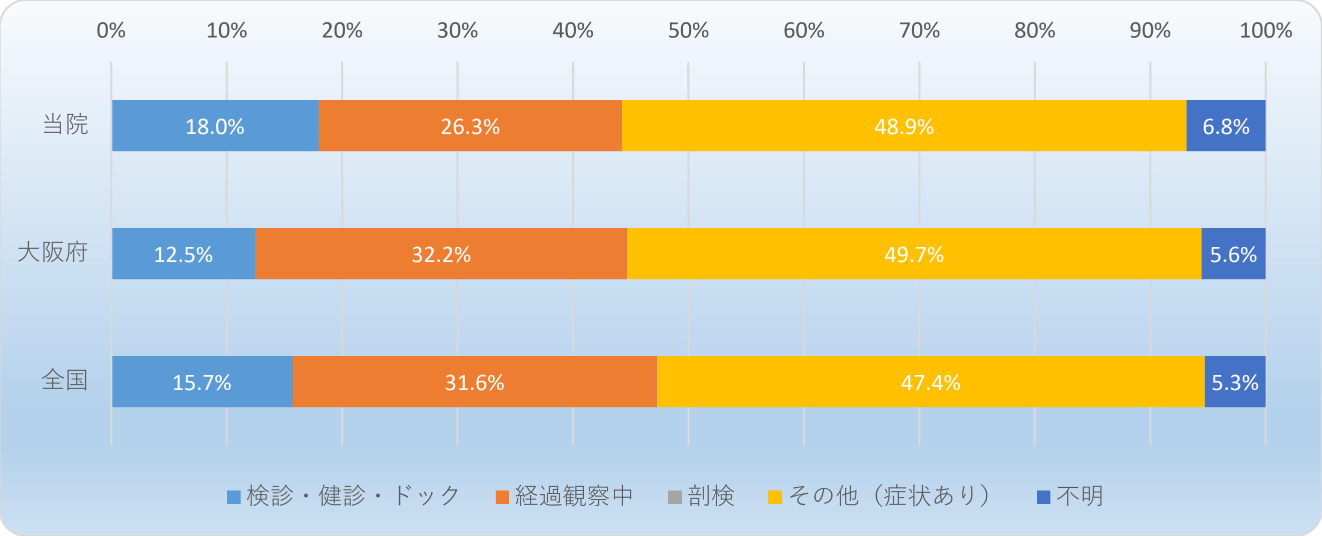
	検診・健診・ドック	経過観察中	剖検	その他（症状あり）	不明
件数	147	215	0	400	56





Ⅰ)-8-B. 発見経緯別件数及び割合　他データとの比較

当院は他のデータ（大阪府、全国）と比べると「検診・健診・ドック」の割合が多く、「経過観察中」の割合が少ないという結果になりました。



Ⅰ)-9. 2016年症例の症例区分件数及び他データとの比較

Ⅰ)-9-A. 症例区分別件数

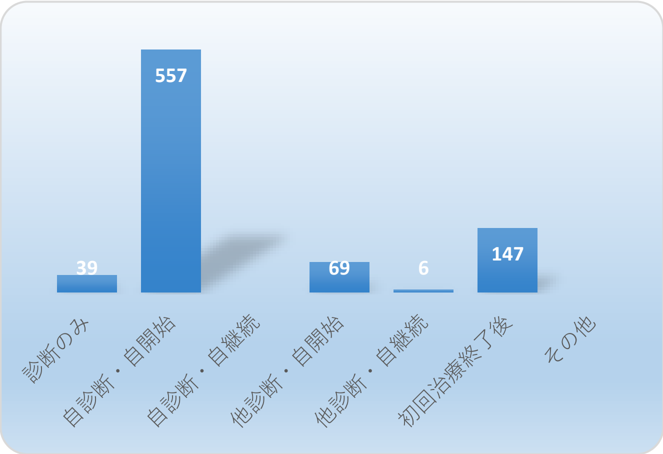
『症例区分』とは

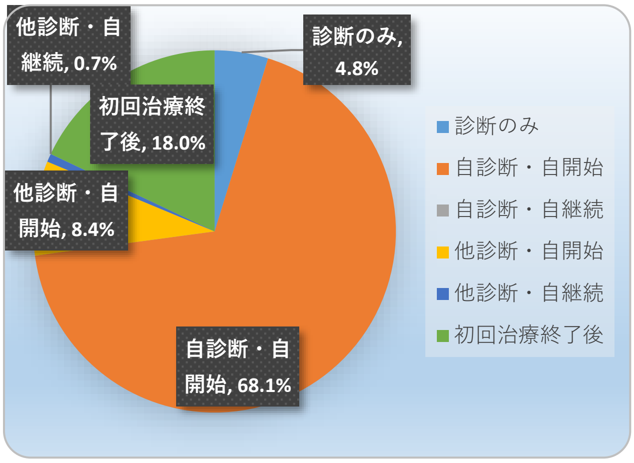
その腫瘍がどの施設で診断され、どの施設で治療が開始されたのかを示す項目になります。
分類は以下のようになります。

・ 診断のみ	： 自施設で診断だけをした場合
・ 自施設診断･自施設治療開始	： 自施設で診断し、自施設で初回治療を開始した場合
・ 自施設診断･自施設治療継続	： 自施設で診断し、他施設で初回治療が開始され、自施設でそれを継続した場合
・ 他施設診断･自施設治療開始	： 他施設で診断し、自施設で初回治療を開始した場合
・ 他施設診断･自施設治療継続	： 他施設で診断し、他施設で初回治療が開始され、自施設でそれを継続した場合
・ 初回治療終了後	： 初回治療が終了後に自施設を訪れた場合
・ その他	： 上記以外（セカンドオピニオン等）

「自施設診断･自施設治療開始」が圧倒的に多いという結果になりました。

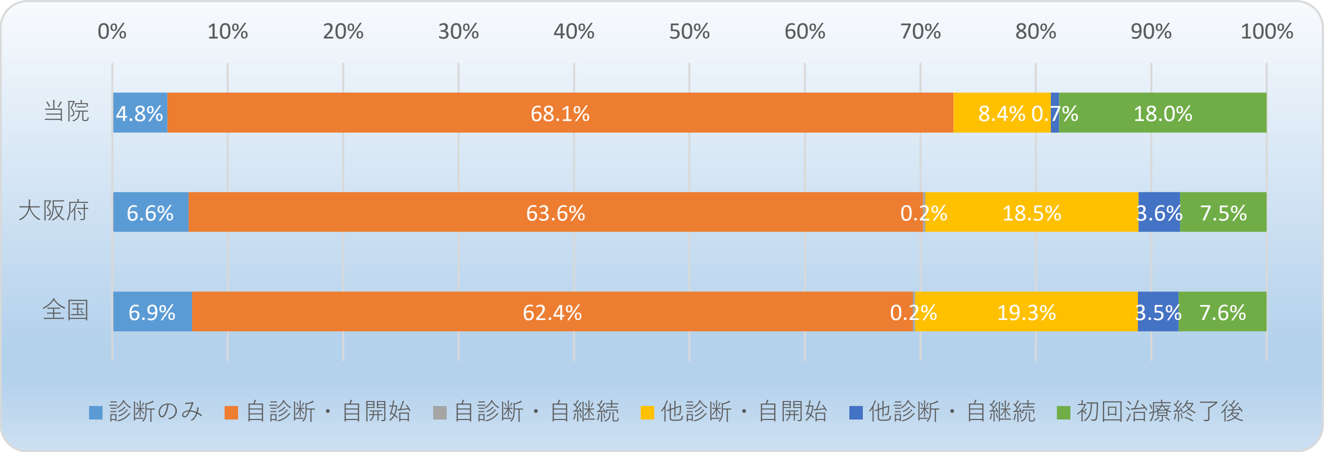
	診断のみ	自診断･自開始	自診断･自継続	他診断･自開始	他診断･自継続	初回治療終了後	その他
件数	39	557	0	69	6	147	0





Ⅰ)-9-B. 症例区分別件数及び割合　他データとの比較

当院は他のデータ（大阪府、全国）と比べると「自施設診断･自施設治療開始」及び「初回治療終了後」の割合が多く、「他施設診断･自施設治療開始」の割合が少ないという結果になりました。



Ⅰ)-10. 2016年症例の部位別初回治療内容

部位別の初回治療内容別の件数になります。

今回、その治療を施行した件数をカウントしました。
よって、
内視鏡手術のみ → 内視鏡手術のみカウント
内視鏡手術 + 外科手術 → 内視鏡手術と外科手術それぞれにカウント
外科手術 + 放射線療法 + 内分泌療法 → 外科手術、放射線療法、内分泌療法それぞれにカウント

	外科手術	体腔鏡手術	内視鏡手術	放射線療法	化学療法	内分泌療法	その他	経過観察
胃	15	11	51	0	9	0	0	17
大腸	7	49	52	0	25	0	0	5
肝	5	1～3	0	0	7	0	1～3	5
肺	1～3	57	0	13	51	0	0	31
乳房	41	0	0	36	16	33	0	0
頭頚部	1～3	0	0	1～3	0	0	0	1～3
食道	1～3	1～3	8	1～3	1～3	0	0	1～3
胆嚢・胆管・膵	5	0	0	0	9	0	0	15
骨・軟部腫瘍	0	0	0	0	1～3	0	0	1～3
皮膚	9	0	0	0	0	0	0	0
婦人科腫瘍	9	0	0	0	1～3	0	0	1～3
前立腺	16	12	0	0	0	25	0	8
尿路系	1～3	9	22	1～3	5	0	1～3	1～3
脳・神経系	0	0	0	0	0	0	0	1～3
血液腫瘍	0	0	1～3	0	46	0	0	13
その他	1～3	1～3	0	1～3	1～3	0	0	7

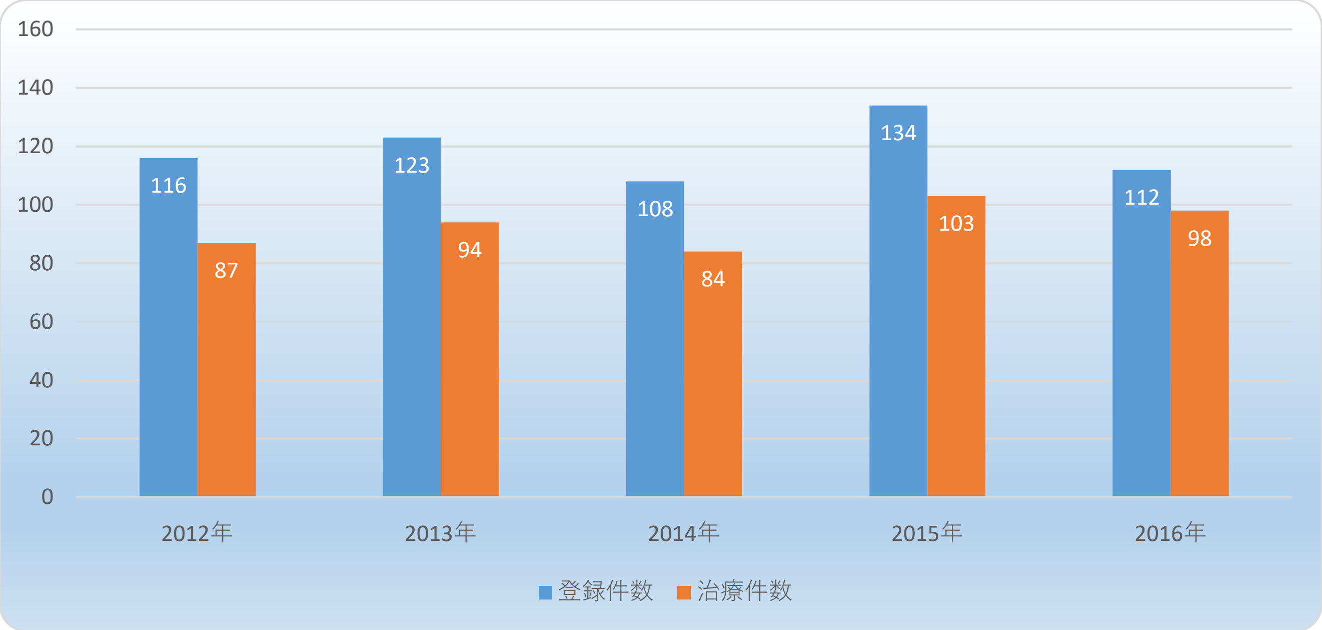
Ⅱ)院内がん登録統計　＜部位別統計＞

Ⅱ)−1. 胃癌

Ⅱ)−1−A. 胃癌　登録件数及び治療開始症例件数　5年推移

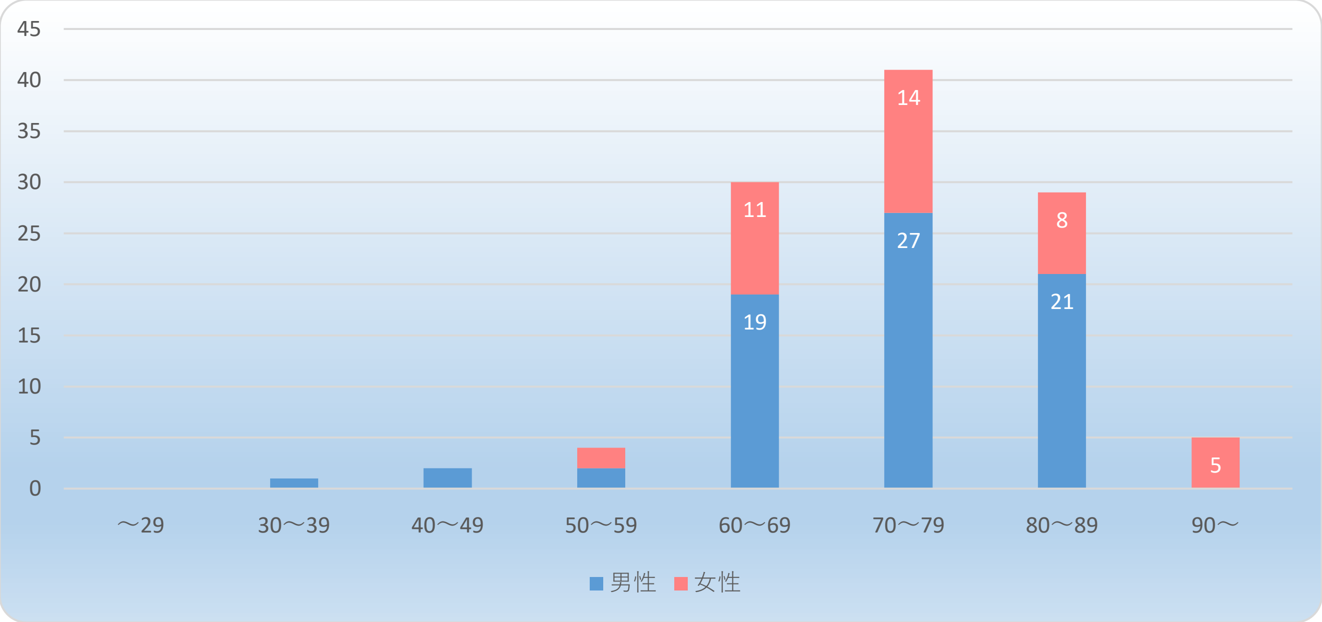
登録件数に関しては登録年により結構差がありますが、治療開始症例数に関してはそれほ大きな差はなく、概ね90件強/年という結果になりました。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
登録件数	116	123	108	134	112
治療開始症例	87	94	84	103	98



Ⅱ)−1−B. 胃癌　2016年症例　男女別診断時年代別件数

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
男性	0	1～3	1～3	1～3	19	27	21	0
女性	0	0	0	1～3	11	14	8	5



Ⅱ)-1-C. 胃癌　2016年症例　自施設治療開始症例　治療開始前stage別件数及び割合

『治療開始前stage』とは

院内がん登録ではがんの進行度を示すものとして、UICC TNM分類(2016年は第6版)を使用しています。
それはT分類、N分類、M分類をそれぞれ定め、それからstageを求める形になっています。
つまり、

T分類	:	腫瘍の大きさ、浸潤度合い等で決定
N分類	:	リンパ節転移の有無、転移個数、大きさ等で決定
M分類	:	遠隔転移の有無、どの臓器に転移しているか、転移している数等で決定

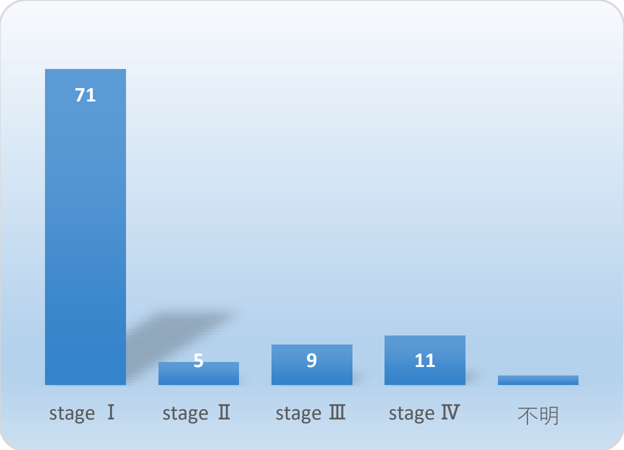
→ stage 決定

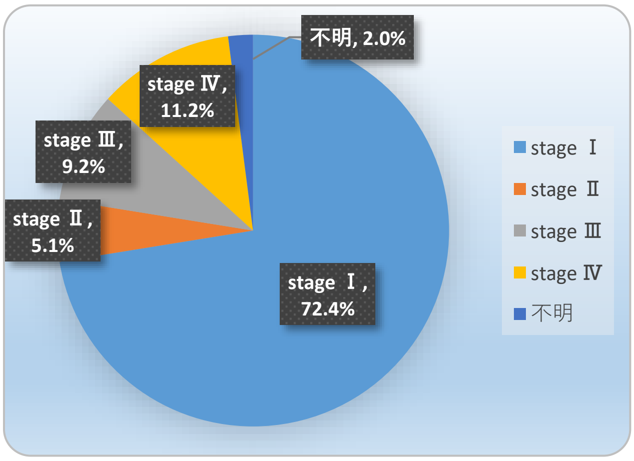
また、主に臨床(治療開始前)stageと術後病理学的stageがあります。

臨床(治療開始前)stage	:	何らかの治療が始まる前に決定されるstageのこと
術後病理学的stage	:	手術した後に決定されるstageのこと

Ⅱ)-1-C-①. 2016年症例　自施設データ

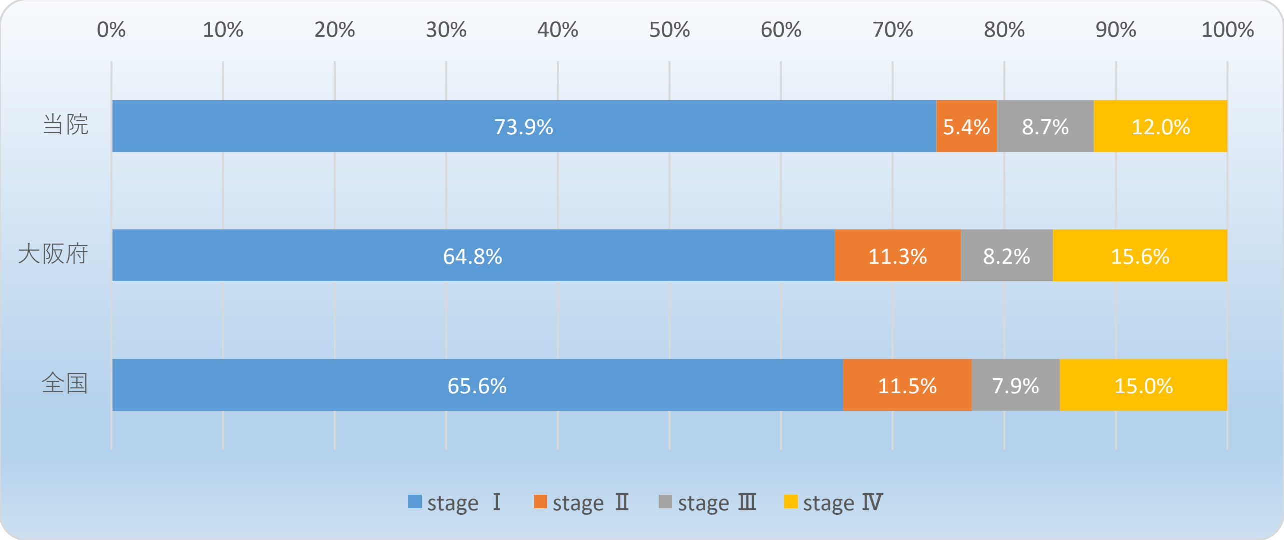
	stage Ⅰ	stage Ⅱ	stage Ⅲ	stage Ⅳ	不明
件数	71	5	9	11	1～3





Ⅱ)-1-C-②. 2016年症例　他データとの比較

当院は他のデータ(大阪府、全国)と比べるとstage Ⅰ の割合が多く、stage Ⅱ 及びstage Ⅳの割合が少ないという結果になりました。



Ⅱ)-1-D. 胃癌　2016年症例　治療内容のデータ比較

院内がん登録全国集計のデータを用いて、治療内容別割合を他のデータと比較しました。

【Ⅰ)-10. 2016年症例の部位別初回治療内容】とは異なり、以下のようにカウントしています。

内視鏡手術のみ → 内視鏡手術のみカウント

内視鏡手術 + 外科手術 → 「内視鏡手術 + 外科手術」にカウント

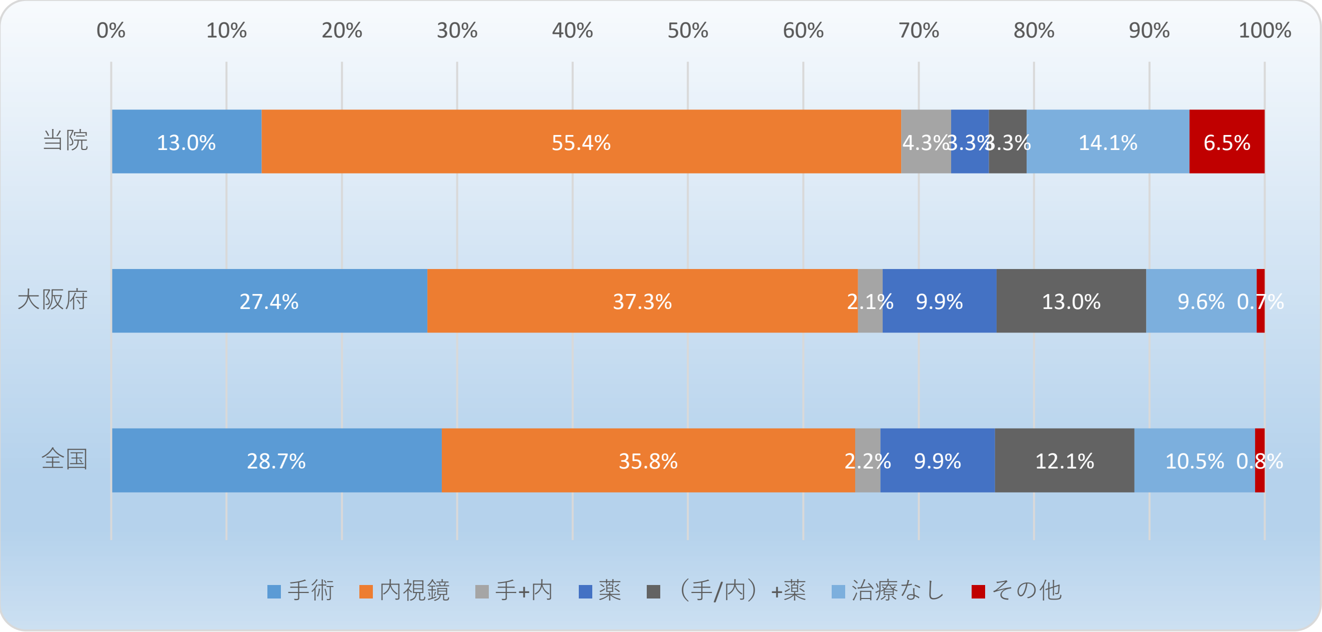
外科手術 + 放射線療法 + 内分泌療法 → 「外科手術 + 放射線療法 + 化学療法」にカウント

分類は以下のとおり

手術	:	外科手術（開胸、開腹、胸腔鏡下、腹腔鏡下）のみ
内視鏡	:	内視鏡手術のみ
手 + 内	:	内視鏡手術と外科手術
放射線	:	放射線療法のみ
薬	:	化学療法（内分泌療法含む）のみ
放 + 薬	:	放射線療法と化学療法（内分泌療法含む）
薬 + 他	:	化学療法（内分泌療法含む）とその他の療法
（手/内） + 放	:	手術（外科又は内視鏡）と放射線療法
（手/内） + 薬	:	手術（外科又は内視鏡）と化学療法（内分泌療法含む）
（手/内） + 他	:	手術（外科又は内視鏡）とその他の療法
（手/内） + 放 + 薬	:	手術（外科又は内視鏡）と放射線療法と化学療法（内分泌療法含む）
他	:	上記以外
治療なし	:	治療なし（経過観察含む）

また、この統計では主たる治療法（件数が多いと判断したもの）以外と集計上数字が確定できなかったものをまとめて、「その他」と表記します。

当院は他のデータ（大阪府、全国）と比べると「内視鏡手術」の割合が多く、「手術」の割合が少ないという結果になりました。

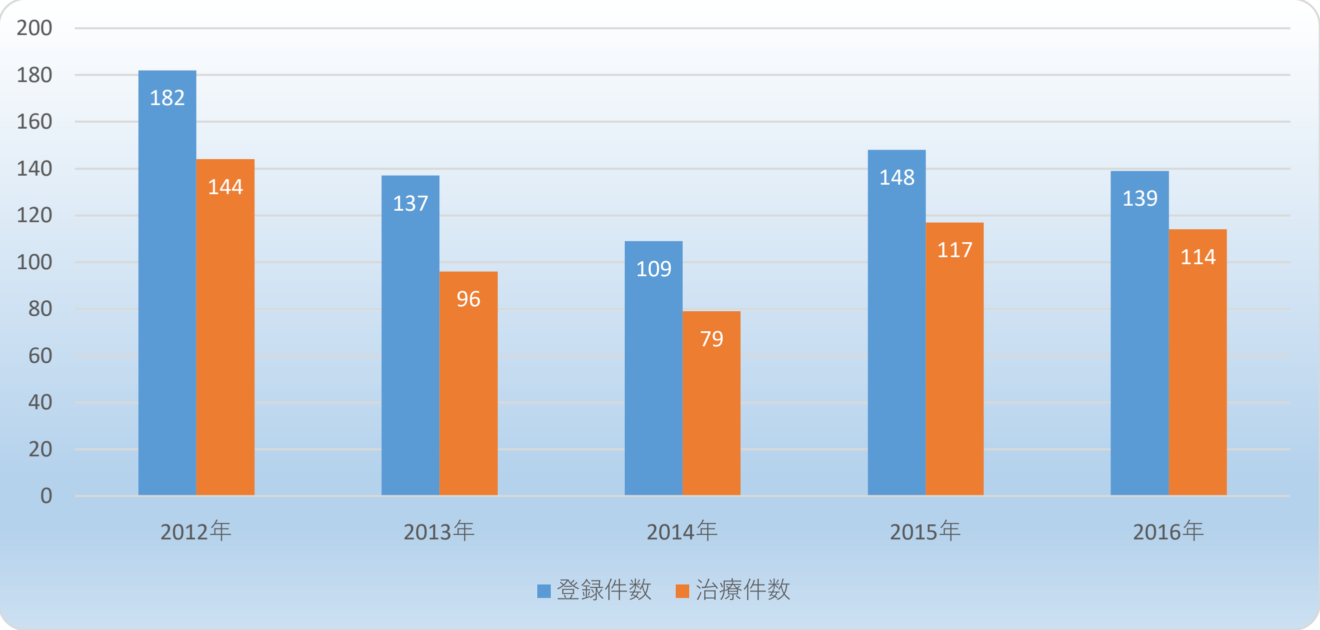


Ⅱ)-2. 大腸癌

Ⅱ)-2-A. 大腸癌　登録件数及び治療開始症例件数　5年推移

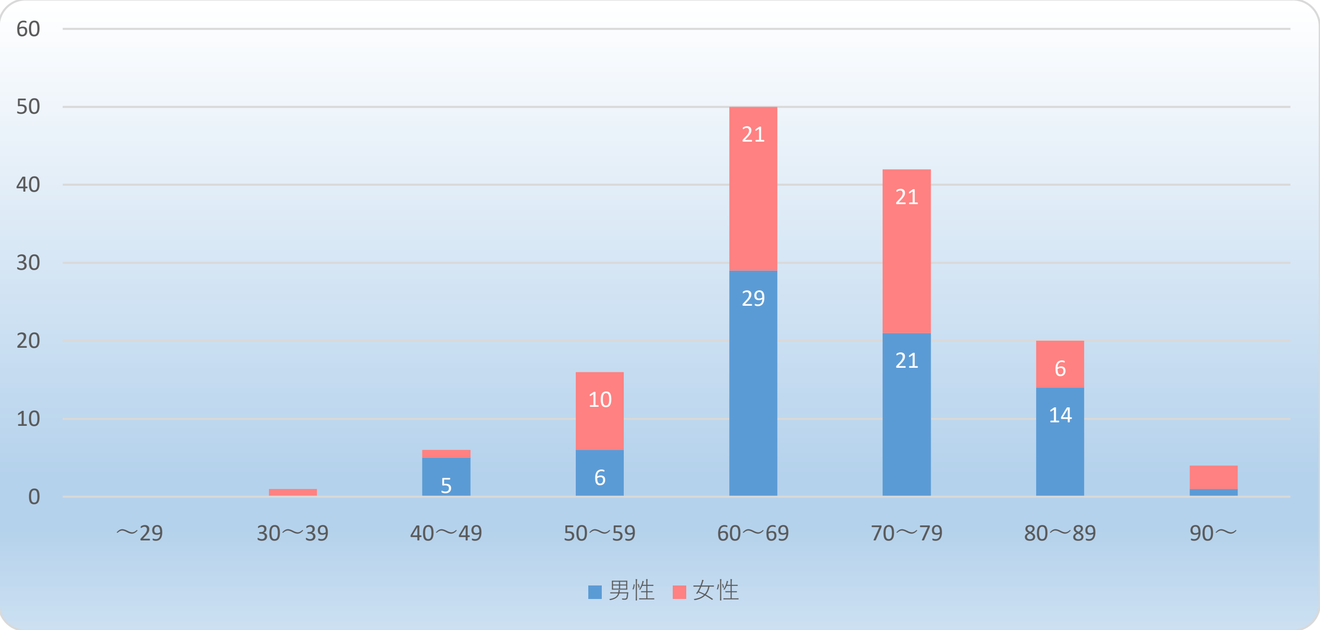
登録件数、治療開始症例数ともに一時期大きく減少しましたが、徐々に件数が多くなっているという結果になりました。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
登録件数	182	137	109	148	139
治療開始症例	144	96	79	117	114



Ⅱ)-2-B. 大腸癌　2016年症例　男女別診断時年代別件数

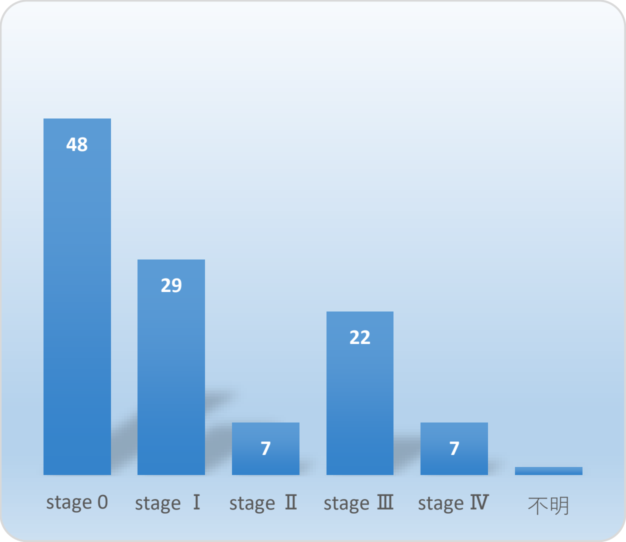
	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
男性	0	0	5	6	29	21	14	1～3
女性	0	1～3	1～3	10	21	21	6	1～3

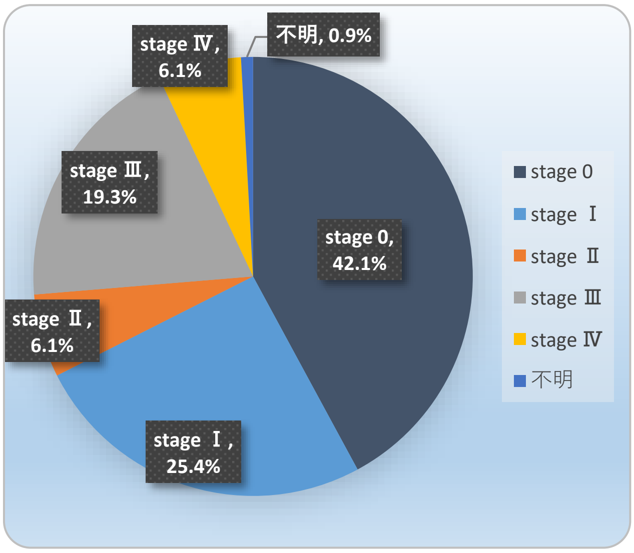


Ⅱ)-2-C. 大腸癌　2016年症例　自施設治療開始症例　治療開始前stage別件数及び割合

Ⅱ)-2-C-①. 2016年症例　自施設データ

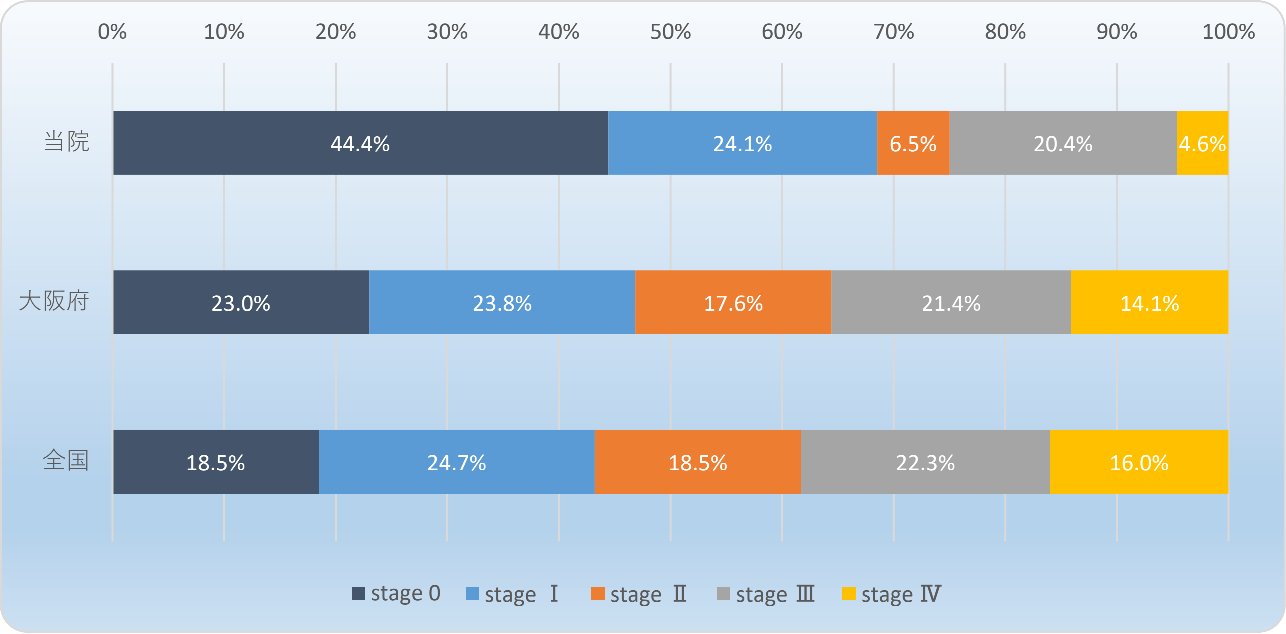
	stage0	stageⅠ	stageⅡ	stageⅢ	stageⅣ	不明
件数	48	29	7	22	7	1～3





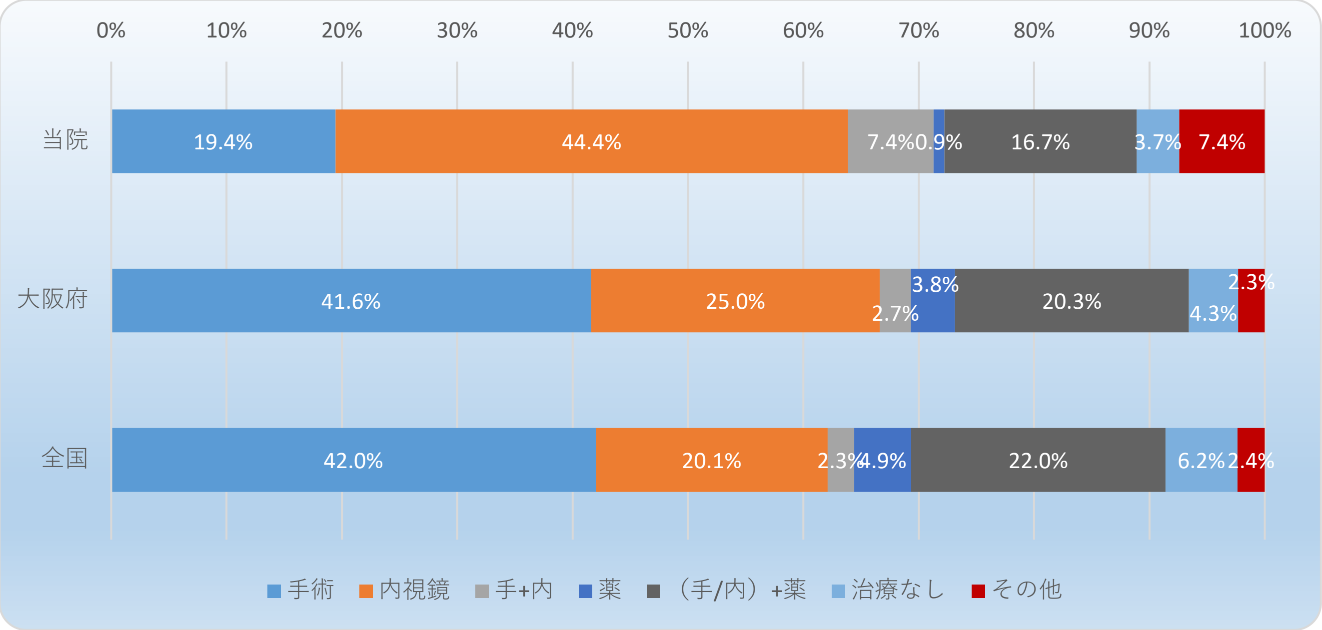
Ⅱ)-2-C-②. 2016年症例　他データとの比較

当院は他のデータ(大阪府、全国)と比べるとstage0の割合が多く(全体の約半分)、stageⅡ及びstageⅣの割合が少ないという結果になりました。



Ⅱ)-2-D. 大腸癌　2016年症例　治療内容のデータ比較

当院は他のデータ(大阪府、全国)と比べると「内視鏡手術」の割合が多く、「手術」の割合が少ないという結果になりました。

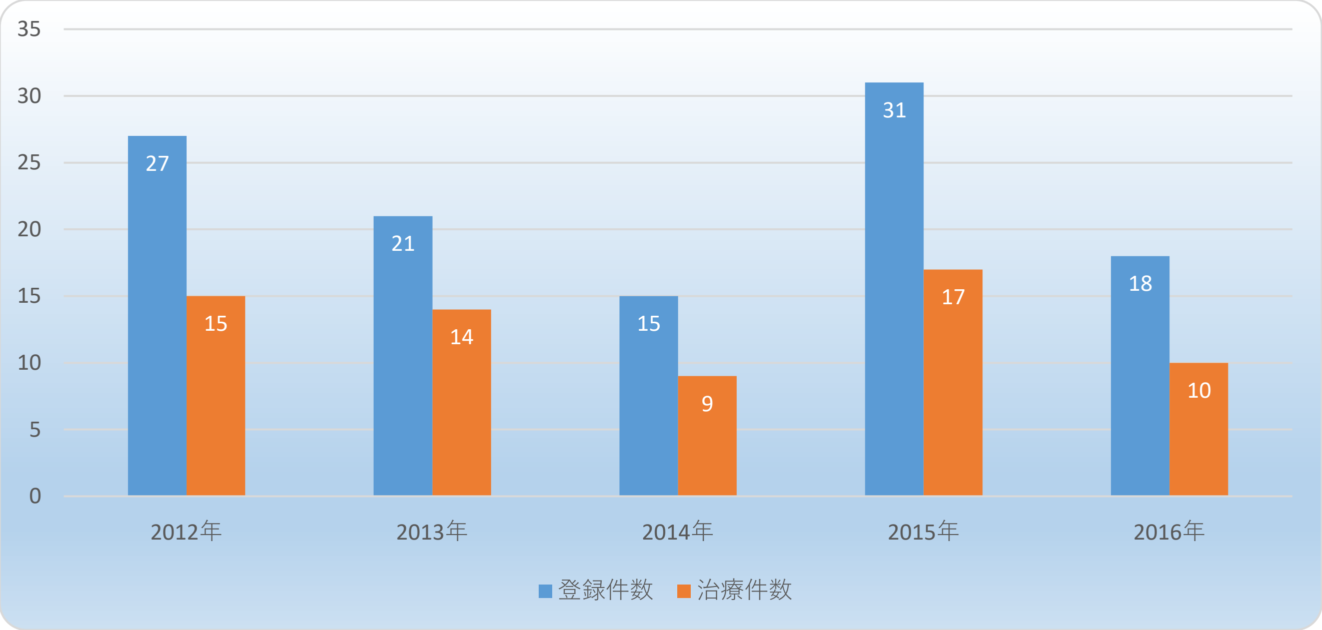


Ⅱ)-3. 肝癌

Ⅱ)-3-A. 肝癌　登録件数及び治療開始症例件数　5年推移

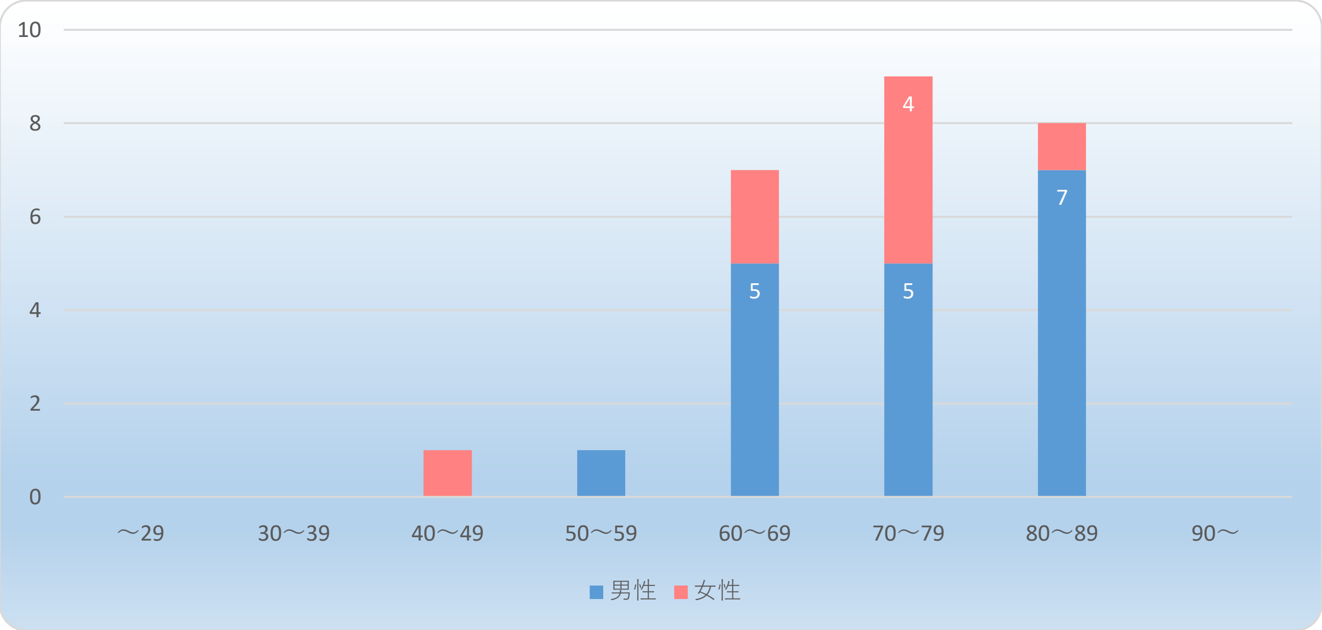
登録件数に関しては登録年により結構差がありますが、治療開始症例数に関してはそれほ大きな差はなく、概ね20件弱/年という結果になりました。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
登録件数	27	21	15	31	18
治療開始症例	15	14	9	17	10



Ⅱ)-3-B. 肝癌　2016年症例　男女別診断時年代別件数

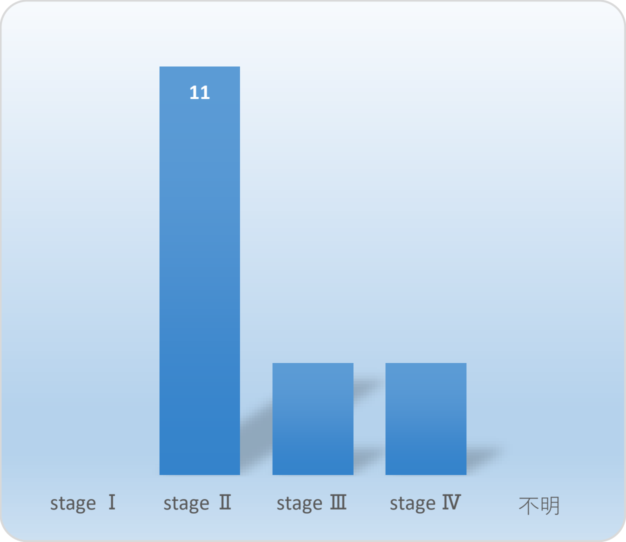
	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
男性	0	0	0	1～3	5	5	7	0
女性	0	0	1～3	0	1～3	4	1～3	0

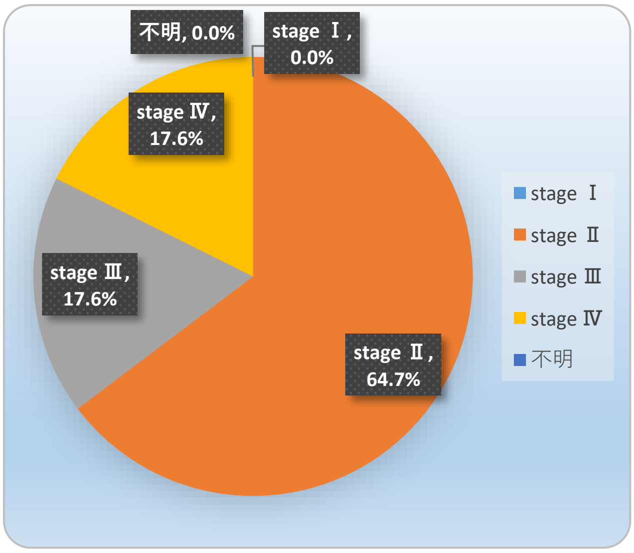


Ⅱ)-3-C. 肝癌　2016年症例　自施設治療開始症例　治療開始前stage(規約)別件数及び割合

Ⅱ)-3-C-①. 2016年症例　自施設データ

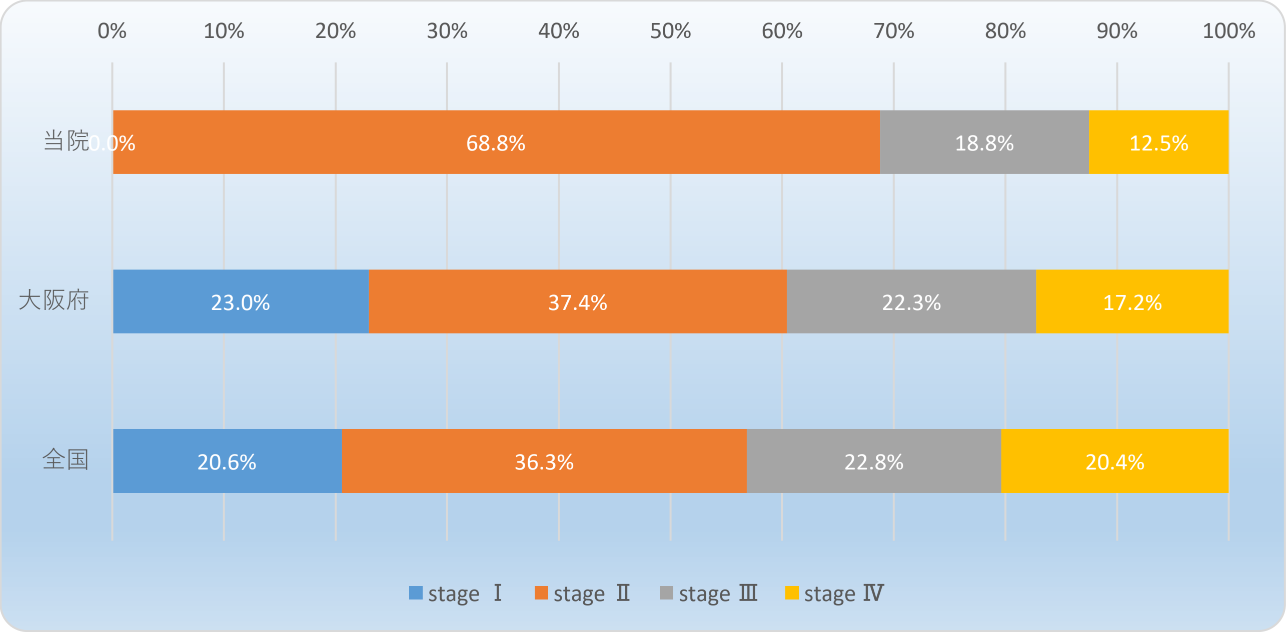
	stageⅠ	stageⅡ	stageⅢ	stageⅣ	不明
件数	0	11	1～3	1～3	0





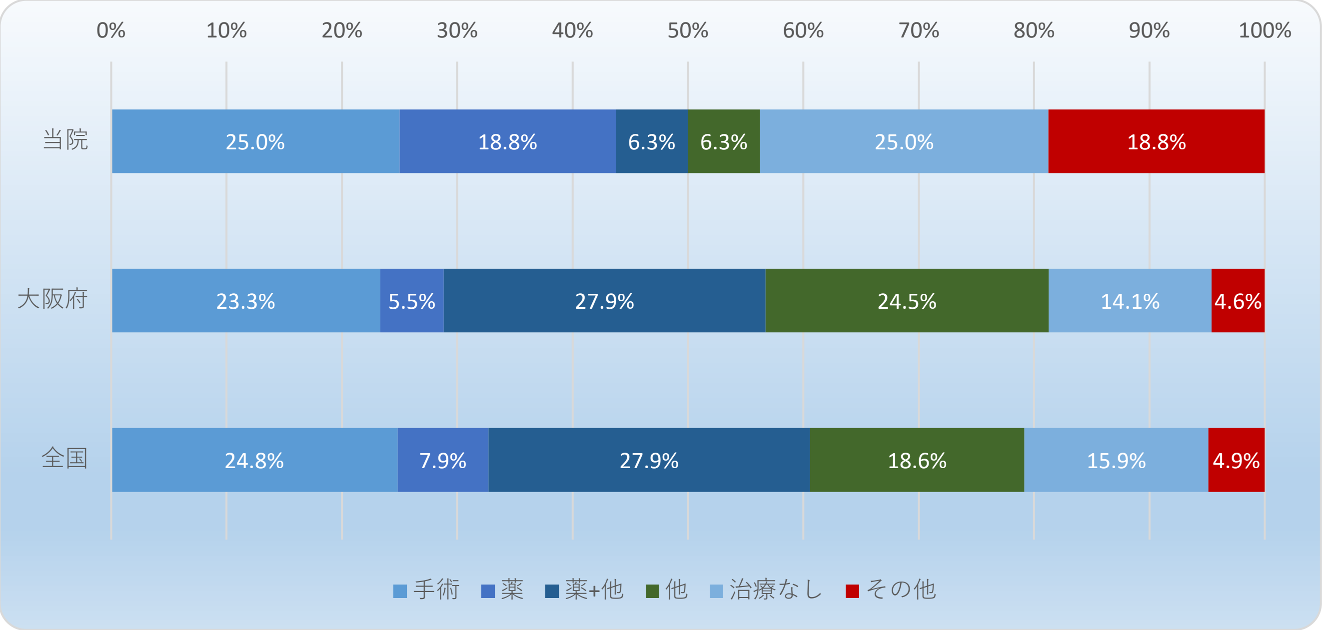
Ⅱ)-3-C-②. 2016年症例　他データとの比較

当院は他のデータ(大阪府、全国)と比べるとstageⅠの症例が無く、stageⅡが大半を占めるという結果になりました。



Ⅱ)-3-D. 肝癌　2016年症例　治療内容のデータ比較

当院は他のデータ(大阪府、全国)と比べると「薬」の割合が多く、「薬 + 他」及び「他」の割合が少ないという結果になりました。

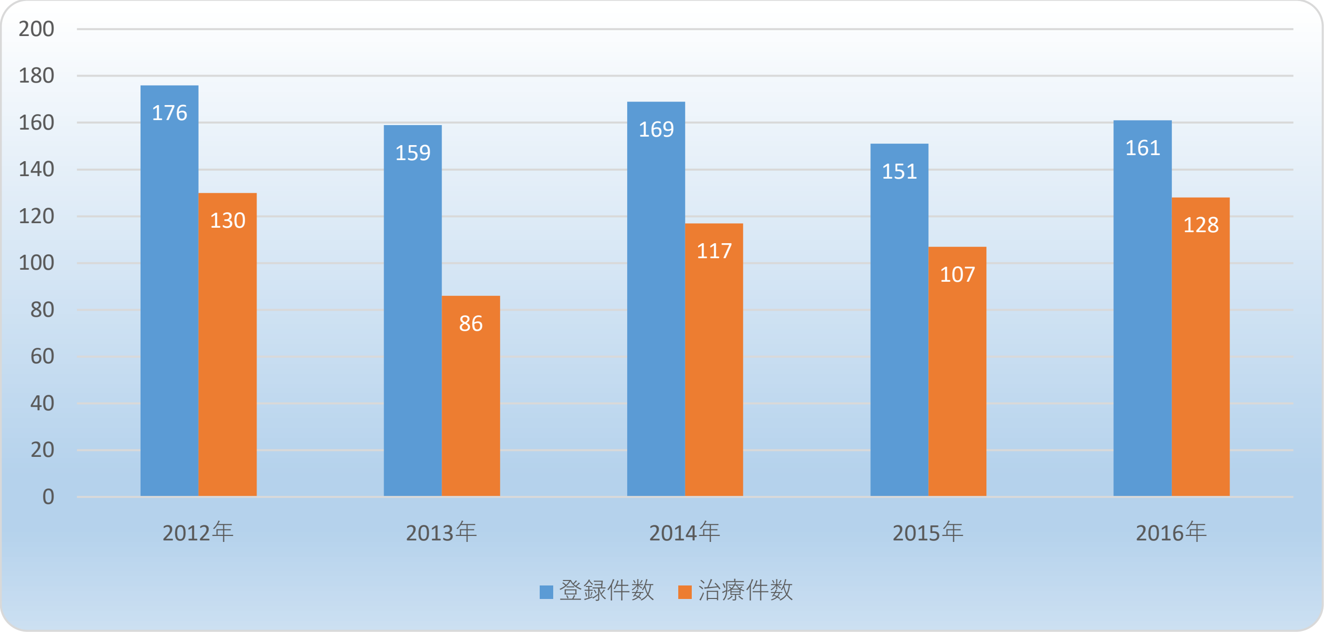


Ⅱ)-4. 肺癌

Ⅱ)-4-A. 肺癌　登録件数及び治療開始症例件数　5年推移

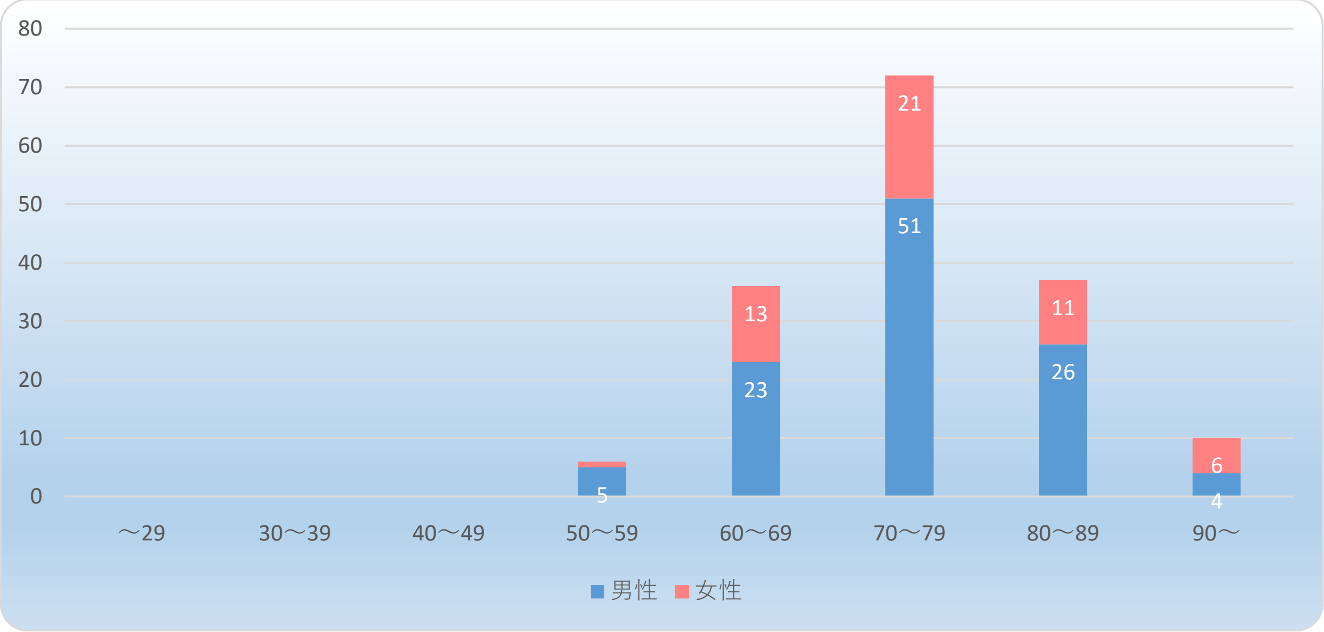
登録件数は大きく変動しませんでしたが治療開始症例が年により大きく変動したという結果になりました。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
登録件数	176	159	169	151	161
治療開始症例	130	86	117	107	128



Ⅱ)-4-B. 肺癌　2016年症例　男女別診断時年代別件数

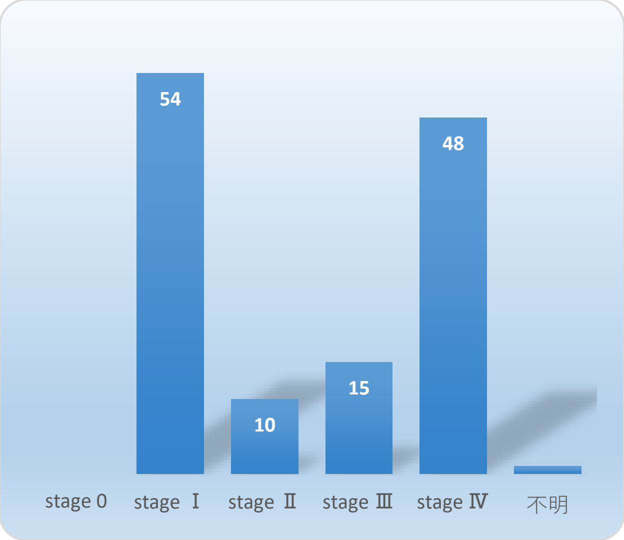
	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
男性	0	0	0	5	23	51	26	4
女性	0	0	0	1～3	13	21	11	6

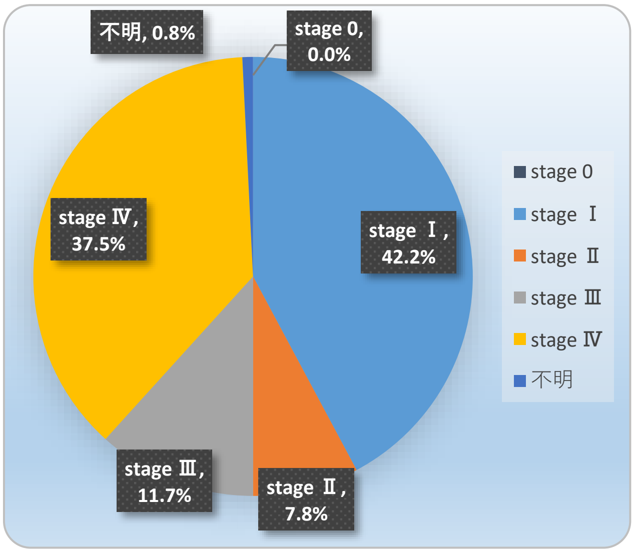


Ⅱ)-4-C. 肺癌　2016年症例　自施設治療開始症例　治療開始前stage別件数及び割合

Ⅱ)-4-C-①. 2016年症例　自施設データ

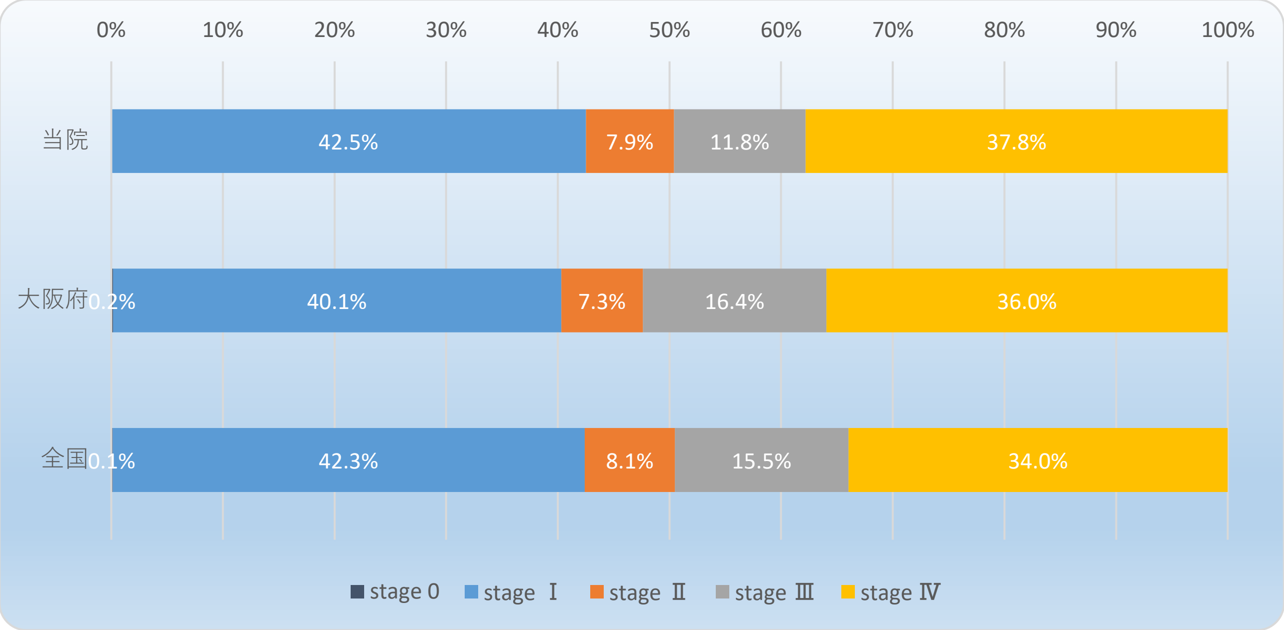
	stage0	stage Ⅰ	stage Ⅱ	stage Ⅲ	stage Ⅳ	不明
件数	0	54	10	15	48	1～3





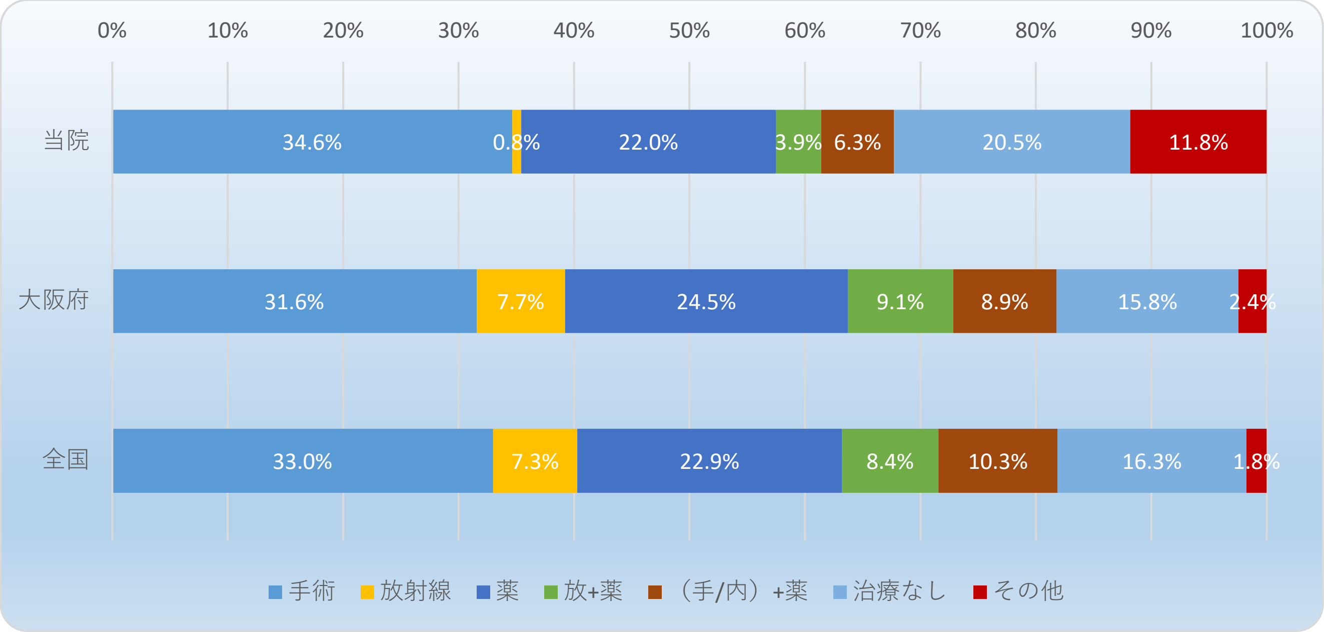
Ⅱ)-4-C-②. 2016年症例　他データとの比較

当院は他のデータ(大阪府、全国)と比べても大きな違いは無く、stage Ⅰ とstageⅣが多いという結果になりました。



Ⅱ)-4-D. 肺癌　2016年症例　治療内容のデータ比較

当院は他のデータ（大阪府、全国）と比べると「放射線」及び「放 + 薬」の割合がだいぶ少ないという結果になりました。
「その他」が多いのは集計で数字を確定できない項目が多かったためと考えられます。

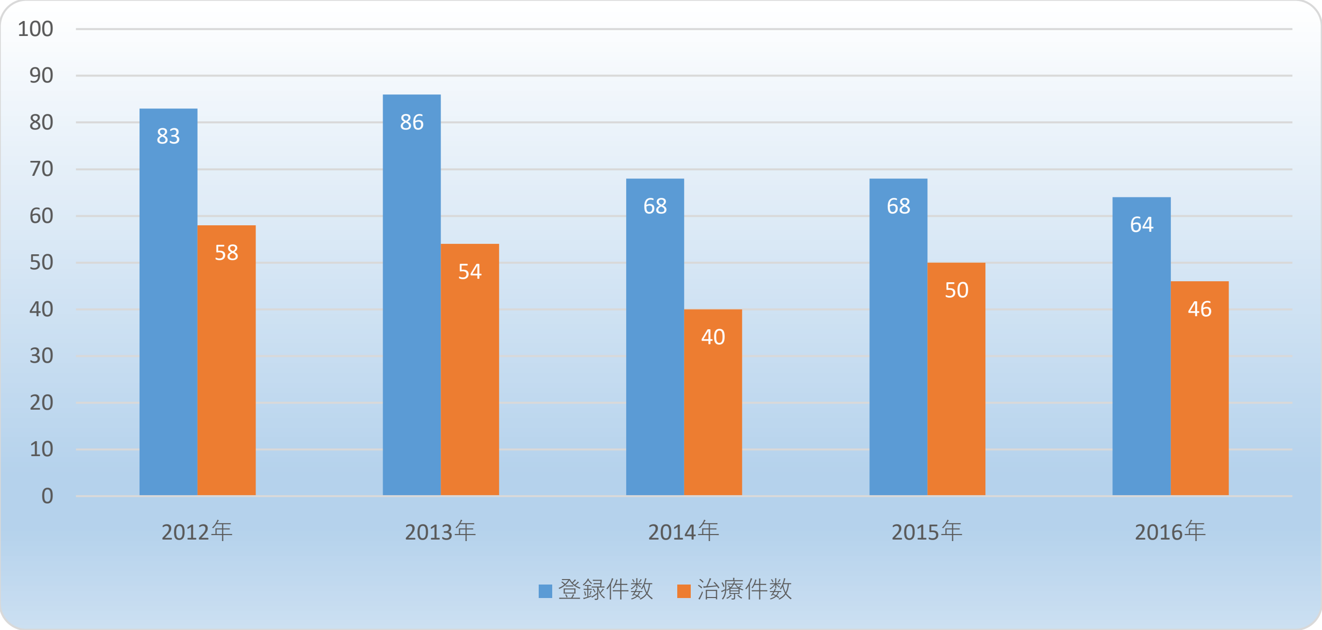


Ⅱ)-5. 乳癌

Ⅱ)-5-A. 乳癌　登録件数及び治療開始症例件数　5年推移

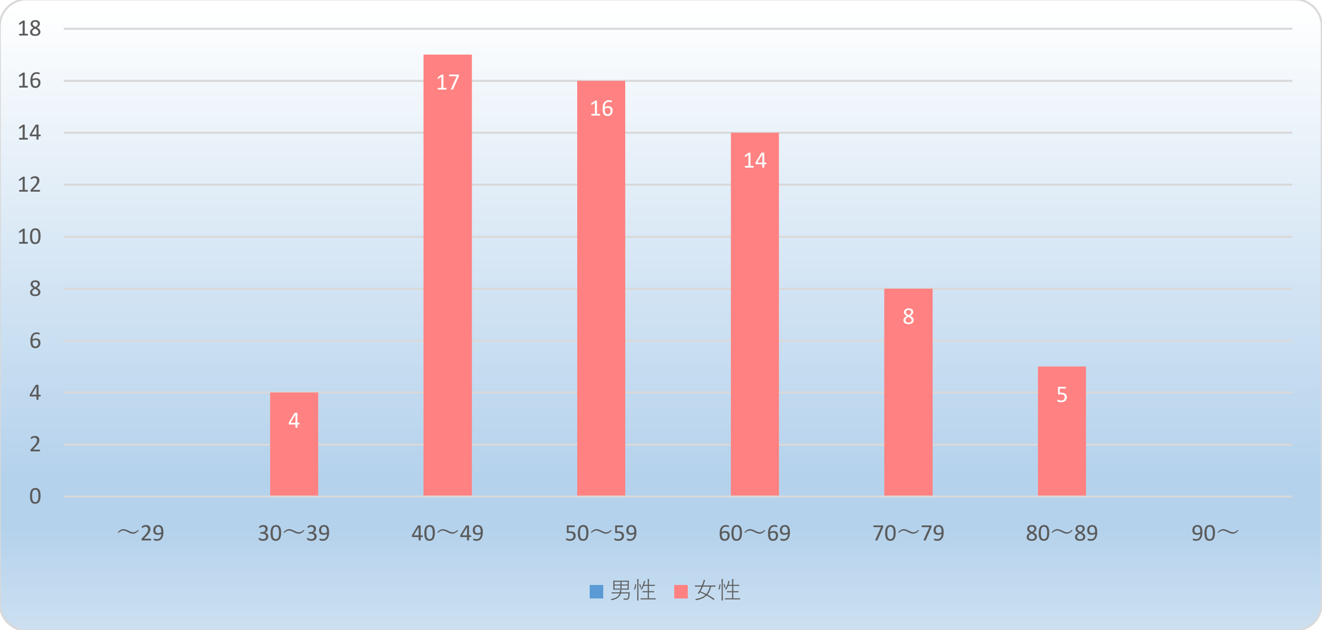
登録件数は少し減った分、治療開始症例が少し減ったという結果になりました。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
登録件数	83	86	68	68	64
治療開始症例	58	54	40	50	46



Ⅱ)-5-B. 乳癌　2016年症例　男女別診断時年代別件数

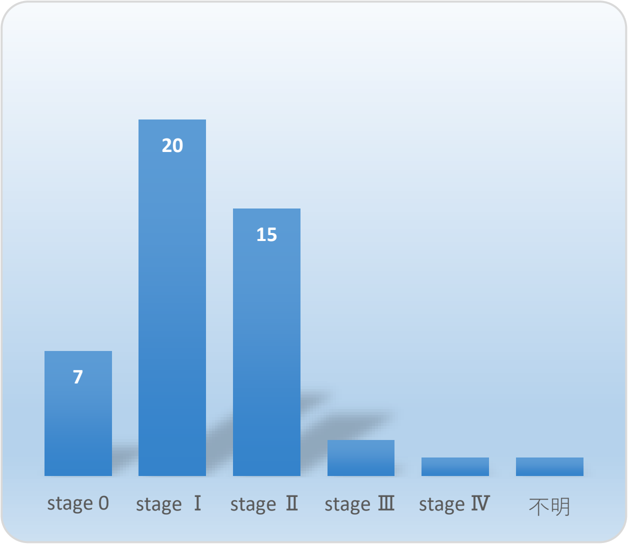
	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
男性	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	4	17	16	14	8	5	0

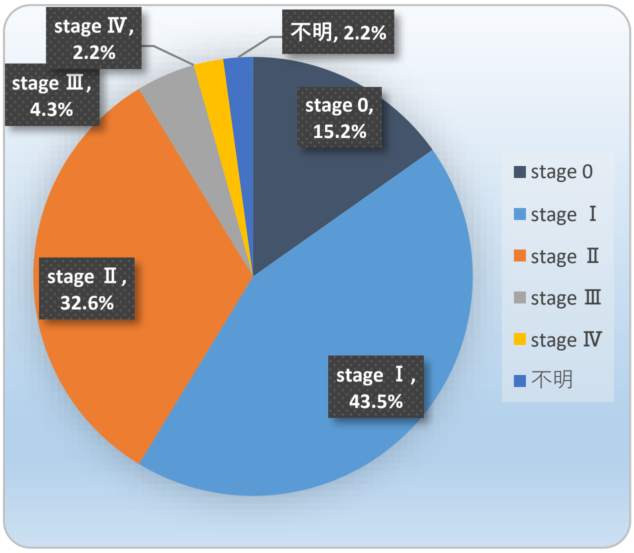


Ⅱ)-5-C. 乳癌　2016年症例　自施設治療開始症例　治療開始前stage別件数及び割合

Ⅱ)-5-C-①. 2016年症例　自施設データ

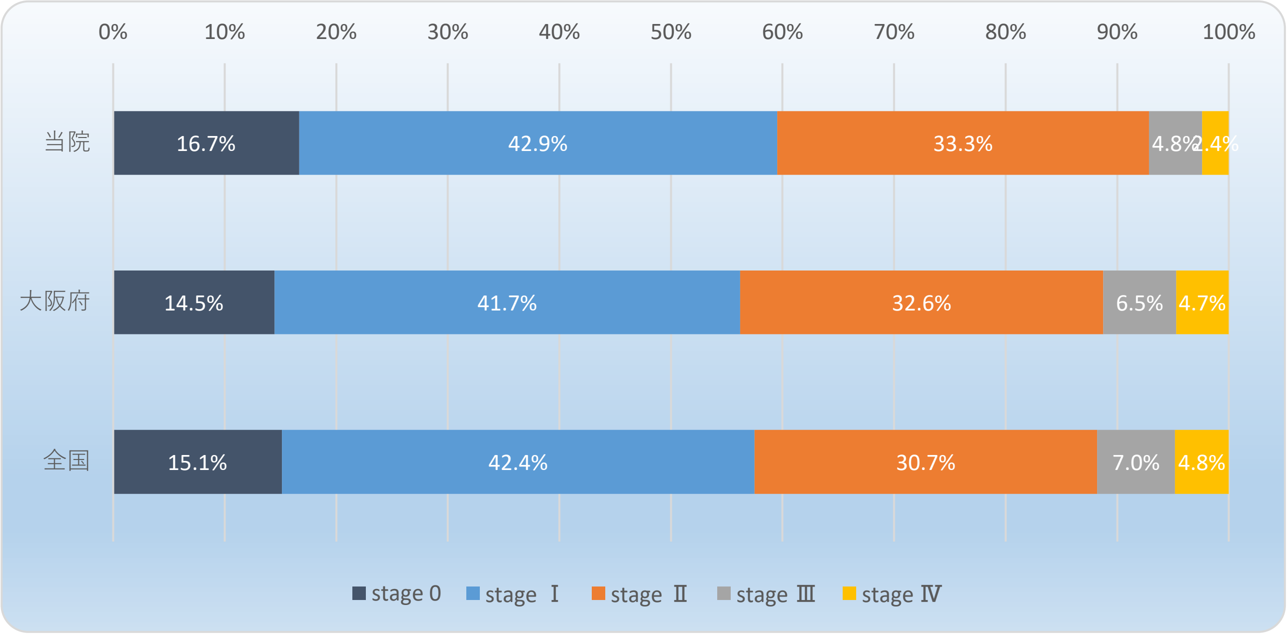
	stage0	stage Ⅰ	stage Ⅱ	stageⅢ	stageⅣ	不明
件数	7	20	15	1～3	1～3	1～3

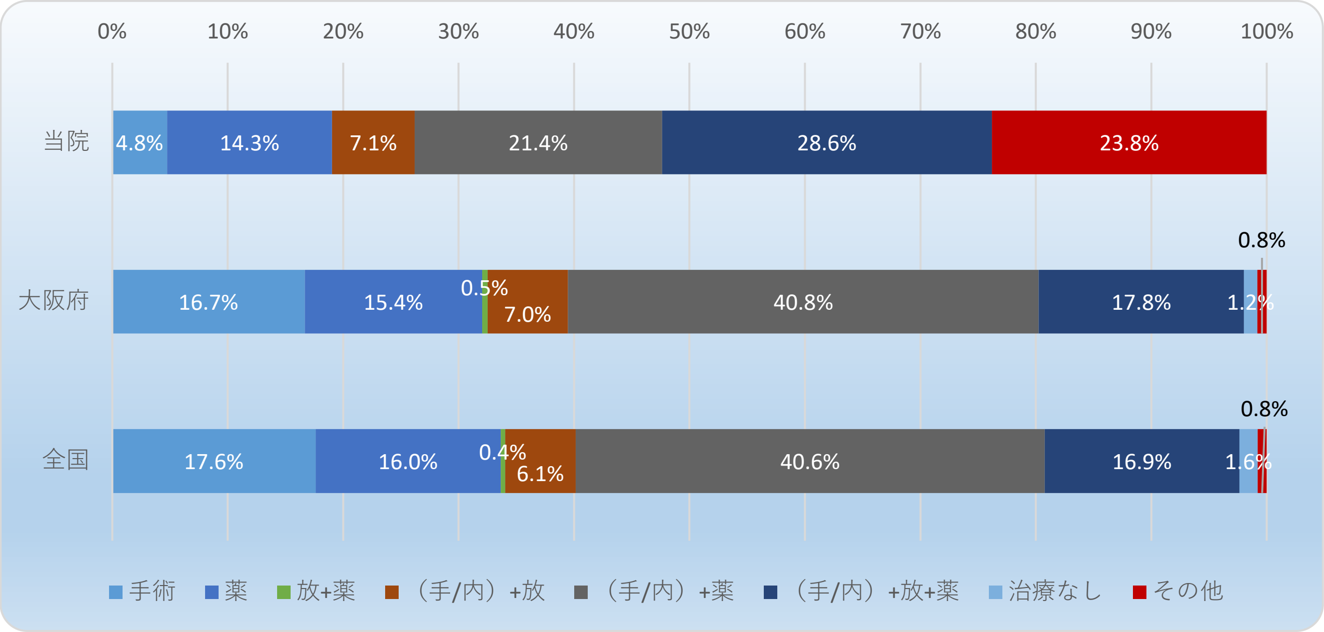




Ⅱ)-5-C-②. 2016年症例　他データとの比較

当院は他のデータ(大阪府、全国)と比べても大きな違いは見られないという結果になりました。



Ⅱ)-5-D. 乳癌　2016年症例　治療内容のデータ比較

当院は他のデータ(大阪府、全国)と比べると「手術」及び「(手/内) + 薬」の割合が少なく、「(手/内) + 放 + 薬」の割合が多いという結果になりました。
「その他」が多いのは集計で数字を確定できない項目が多かったためと考えられます。